

平成 28 年 2 月 1 日

国土交通省住宅局

平成 28 年 1 月 29 日 9 時 30 分から開始された「民主・維新甘利大臣疑惑追及チーム」の  
国土交通省に対するご質問と回答

1. 前住宅局長に問い合わせをした甘利議員事務所の秘書は東京の秘書か。

昨年 3 月上旬頃に問い合わせをした甘利議員事務所の秘書については、前住宅局長には明確な記憶がなく、また、記録も残されていない。

同年 7 月 16 日 10 時に来訪した秘書は、東京にある国会事務所の秘書である。

2. 昨年 3 月上旬頃の甘利議員事務所の秘書から前住宅局長にあった問い合わせに関する組織としての接触記録

本件に関して、甘利議員事務所の秘書と直接接触したのは、前住宅局長のみであり、それに関する記録はない。

3. 昨年 3 月 12 日の事務方の説明は、どのような指示に基づき、誰が、どのような資料で行い、どのようなやり取りがあったか。

住宅局総務課民間事業支援調整室長が、UR が千葉ニュータウン北環状線周辺でコンクリート亀裂に関して補償交渉しているかという点について報告をするよう、前住宅局長から指示を受けた。同室長は、別紙 1（注）により状況報告を行った。なお、その際、前住宅局長から特段の指示は受けていない。

4. 前住宅局長は返答していないとのことだが、事務方は何らかの連絡をしたのか。

ご指摘のような事実はない。

5. 昨年 7 月 16 日に甘利議員事務所の秘書からあった UR の連絡先の返答が同月 21 日となった理由

昨年 7 月 16 日に前住宅局長から民間事業支援調整室長に対して、UR の担当者の連絡先を確認するよう指示があり、翌日、UR からの報告を受けて民間事業支援調整室の担当者から前住宅局長に UR の担当者の連絡先を報告した。その後、同月 18 日から 20 日までの三連休をはさんで、同月 21 日に民間事業支援調整室の担当者から連絡先の電話番号の訂正を別紙 2 により報告し、その場（局長室）で、前住宅局長から秘書に電話で UR の担当者名と連絡先を伝えた。

6. その間に局長は UR とやりとりをしていたのか。

前住宅局長に確認したところ、ご指摘のような事実はない。

7. 返答の前に前局長から UR に対して秘書から連絡があることを連絡したのか。

前住宅局長に確認したところ、ご指摘のような事実はない。

8. 昨年7月21日に前住宅局長は、甘利議員事務所の秘書に対し、URの担当者は誰だと伝えたのか。

別紙2の通り伝えた。

9. 平成28年1月28日付け『週刊文春（1月28日号・2月4日号）』記事に関する事実関係について」の公表にあたり、前住宅局長から事情を聞いたヒアリングの日時  
本年1月22日10時頃、同月25日14時頃、同月27日13時半頃である。

10. 平成28年1月28日付け「S社とUR間の補償協議状況について」の公表にあたり、URとS社の補償協議状況について、URへ確認したとのことだが、いつ依頼していつ返答があったのか。また、その内容はどうか。

本公表資料は、URに依頼して作成したものではなく、URからの電話による聴き取りにより国土交通省が作成し、平成28年1月27日にURに確認を依頼したもの。他の公表資料とともに公表直前に内容が最終的に確定したものである。その内容は、公表した内容と同じである。

（注）別紙1について

既に本件補償について、マスコミ等で大きく取り上げられ、社会的関心が高いと考えられること等から、通常非公表とする箇所についても特に公表することとしなければ、今後の国土交通省とURの事務・事業の適正な遂行に大きな支障が生ずるおそれがあると考えられること等に鑑み、別紙1の通り公表することとしたものである。

千葉北部地区北環状線工事に係る(株)への対応について

●北環状線整備：機構施行の街路事業(特定公共事業)

●経緯

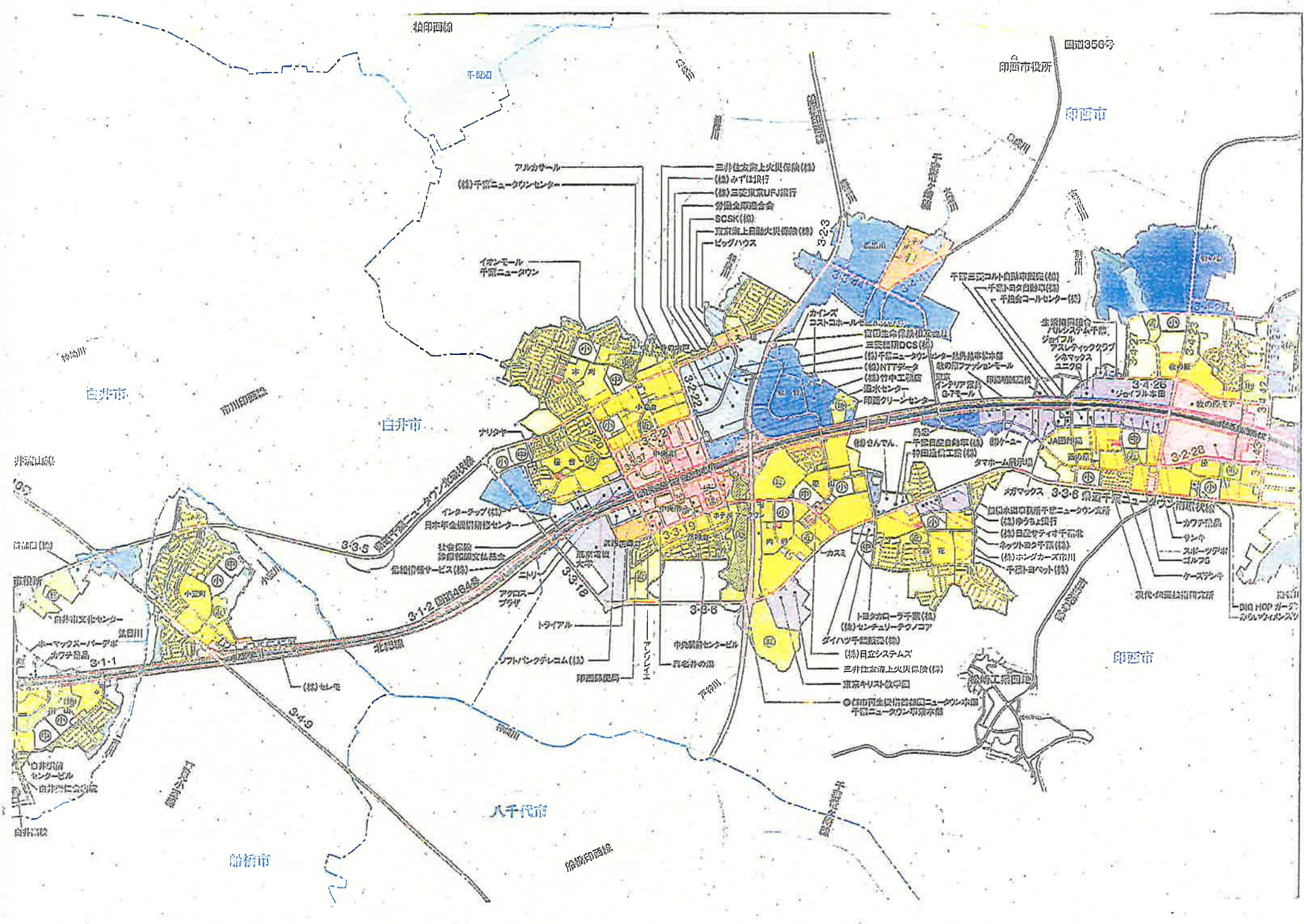
- ・平成 24 年 5 月、当該地の道路用地エリアを機構が用地買収。  
(元々、不法投棄物が埋設されたエリア) ※：借地権者(建設業[型枠工事])
- ・従前機能の確保のために、残地内の全ての物件について、残地内での再配置を前提とした物件移転(関連移転)を認定。平成 25 年 8 月 6 日付で物件移転補償契約を締結。
- ・日付で、撤去期日を設定する物件とその期日(平成 年 月 日)を確認する「確認書」を締結。  
⇒等、「撤去期日を設けない物件」(工事に直接の支障ではないが、将来再配置を行う際に撤去することとなる物件)あり。
- ・契約締結後、にて移転作業を進めていたが、残地内で再建を進めるにあたり地下に産業廃棄物があるため残地内での再建は認めない旨の指導が千葉県環境部局からに対してなされた。
- ・平成 年 月 日の変更確認書により、当初確認書で定めた撤去期日(平成 年 月 日)を平成 年 月 日へ延期。併せて、の強い要望を踏まえ、今回争点となっているについて、「撤去期日を設けない物件」へ変更。
- ・平成 年 月 日、撤去期日を設定した物件の撤去完了を確認し、支払いを実施。

●現在の状況

- ・平成 25 年 9 月に可能な範囲から道路の工事着手を行い、鋼管杭打設など施工していたところ、平成 年 月に、は工事に起因し・が損傷したとして、損傷修復費用等を要求。  
⇒の損傷(、)等について、URが目視により確認。
- ・損傷修復費用等について協議していたところ、相手方からは、損傷修復に加え、費用を要求されているところ。
- ・の安全確保のため、平成 26 年 12 月から現在まで工事を中断し、その対応について協議中。

●対応方針

残地内の全ての物件についての再配置費用(移転費用)は既に支払い済みであるが、事業損失補償の範囲内での損傷修復費用の補償等について、相手方と交渉を継続する。



柏印西線

国道956号

印西市役所

印西市

アルカサル  
(株)千代田ニュータウン

イオンモール  
千代田ニュータウン

三井住友海上火災保険(株)  
(株)みずほ銀行  
(株)三菱東京UFJ銀行  
労働金庫連合会  
SCSK(株)  
東京海上日動火災保険(株)  
ビッグハウス

千代田区  
千代田区

千代田区  
千代田区

生協同組合  
パルシステム千代田  
ジョイフル  
アスレチッククラブ  
シネマックス  
ユニクロ

3-4-26  
ジョイフル本田

3-2-28

千代田区  
千代田区

千代田区  
千代田区

千代田区  
千代田区

千代田区  
千代田区

非流山線

白井市

白井市

白井市

白井市

船橋市

八千代市

船橋印西線

印西市



面 図

●審議役 間下 滋 (マシモ シゲル)

連絡先：NT業務部経営管理チーム・[REDACTED] (045-650-8[REDACTED])

(045-650-0[REDACTED])

## 神奈川県自民党県議団 視察対応（東松島市野蒜地区）

## ■日時

平成27年8月10日（月）14:57～

## ■行程

時間	行程	備考
14:23	石巻駅 発	県議団降車後、貸切バスは東名駅へ
↓		
14:52	①野蒜駅 着	
↓		ホーム等から駅舎・地区を視察
14:55	①野蒜駅 発	
↓		
14:57	②東名駅 着	
↓		駅前にて地区概要説明
15:10	②東名駅 発	
↓		UR公用車で貸切バスを先導
15:20	③展示室 着	
↓		工事内容説明、特産品販売、トイレ休憩
15:40	③展示室 発	
↓		UR公用車で貸切バスを先導
15:45	④（旧）野蒜駅 着	
↓		旧野蒜駅を視察
16:00	④（旧）野蒜駅 発	
↓		三陸道鳴瀬奥松島ICへ
17:00	仙台市内 着	

## ■参加者

24名

## ■対応者

宮城福島震災復興支援本部総務企画部長 八代 真介

宮城福島震災復興支援本部東松島復興支援事務所長 清水 良祐

宮城福島震災復興支援本部東松島復興支援事務市街地整備課長 亀山 隆

以 上

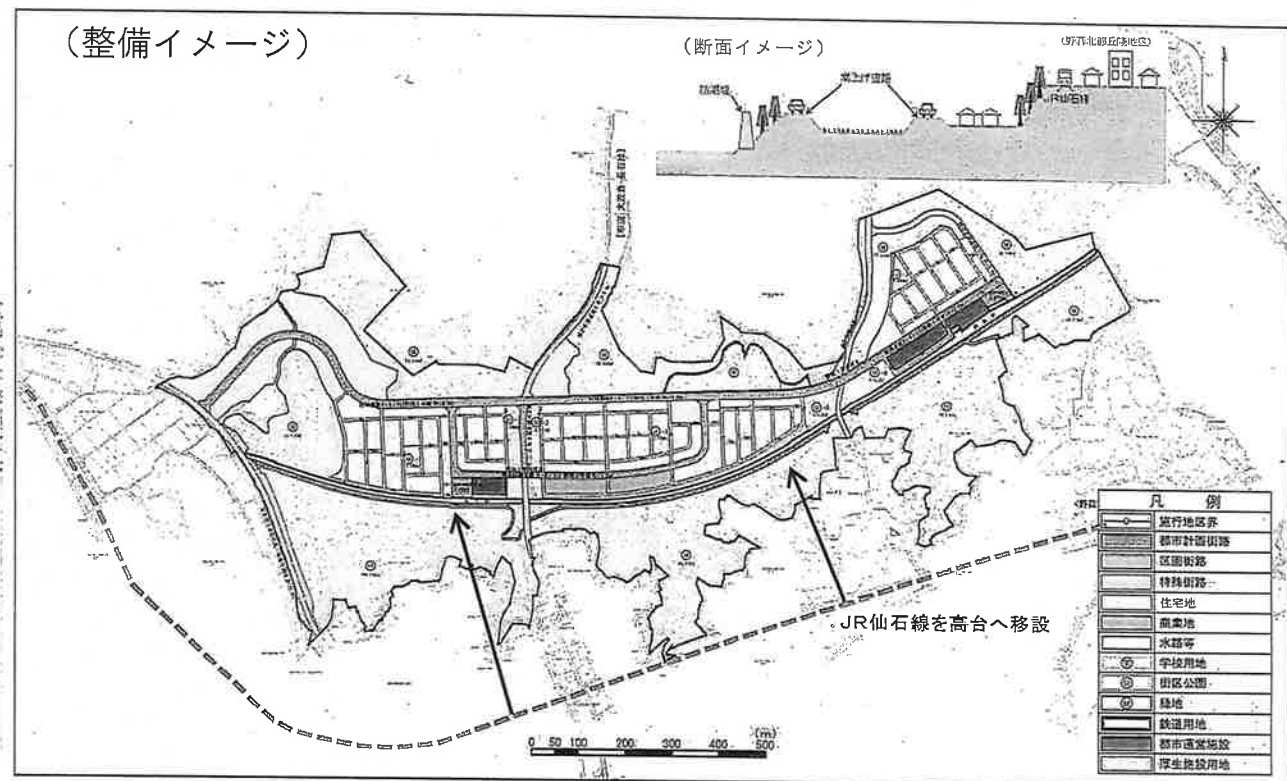
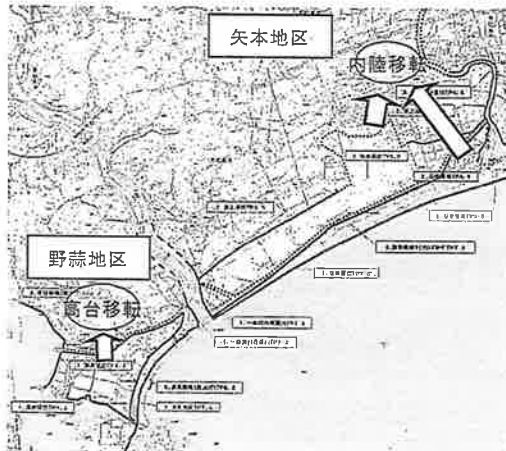
# 東松島市 野蒜北部丘陵地区

- 野蒜地区被災住民の集団移転先となる高台新市街地の整備
- JR仙石線の早期復旧



所在地：東松島市野蒜字北余景の一部ほか  
事業手法：土地区画整理事業  
地区面積：約91.5ha 地権者数：1人（市）  
事業費：約365.3億円  
計画戸数：448戸  
都市計画：平成24年5月30日決定  
事業計画：平成24年9月27日決定  
平成25年12月18日変更  
事業期間：平成24年度～平成29年度

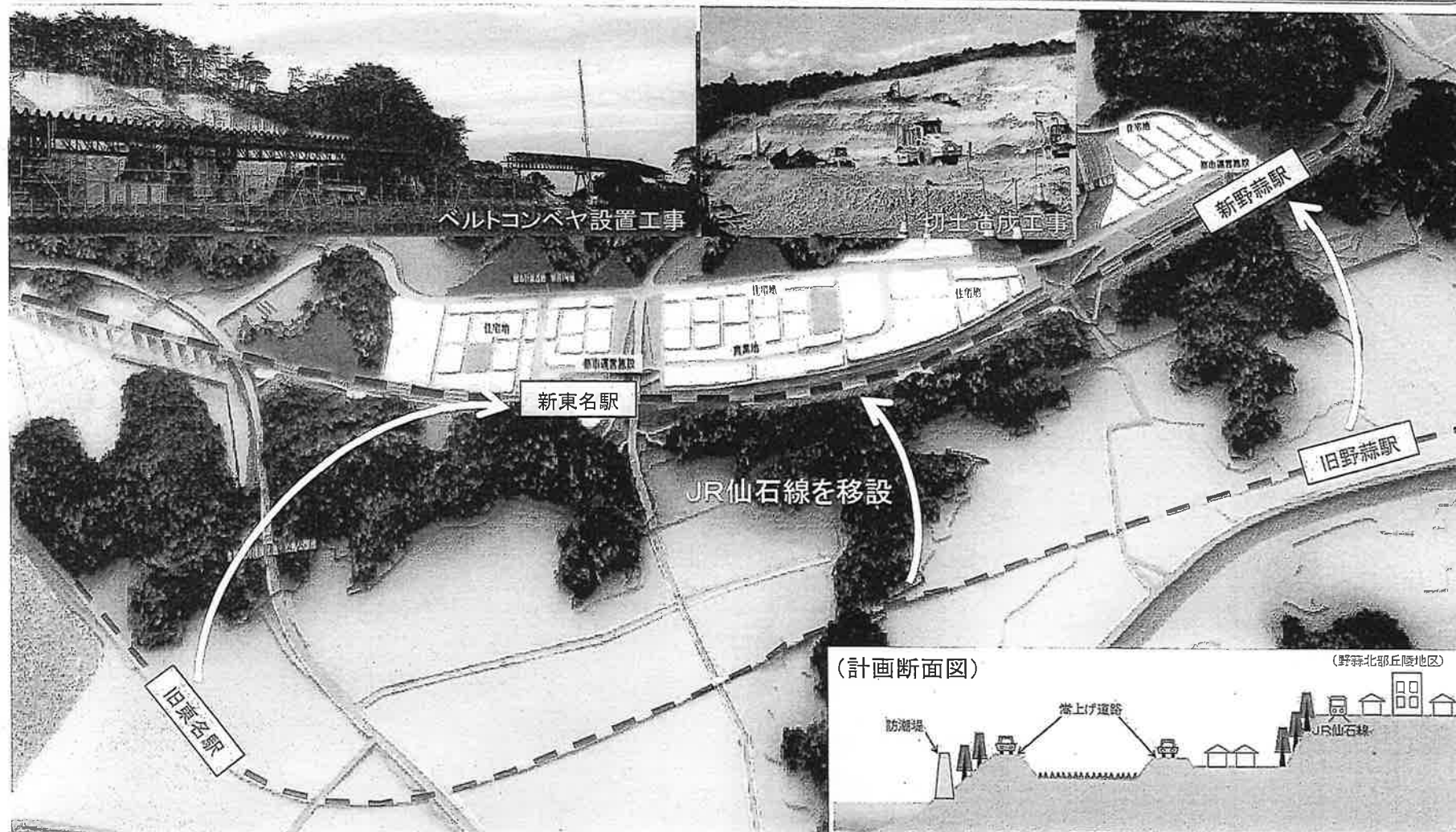
(復興まちづくりの考え方)





# 東松島市 野蒜北部丘陵地区

- 平成27年のJR仙石線の移設・復旧と一体的に高台新市街地を整備  
(住宅用地448戸、生活支援施設用地等平成27年度宅地供給開始)
- CM方式での民間提案により約300万 $m^3$ の残土をベルトコンベヤ等で搬出し、工期を短縮



## 提出資料一覧

### 【 要 請 事 項 】

- 面談応答状況のUR職員をA、B等表記で対応者が  
特定できるようにすること . . . 資料 1
- 秘書名を開示できない情報公開法の根拠条文 . . . 資料 2
- 神奈川県議会議員団の視察の概要 . . . 資料 3
- 10/26 の飲食の領収書及び報告書 . . . 資料 4
- 移転補償・再配置補償の説明資料 . . . 資料 5
- 違法建築物も補償する法制局が示した根拠 . . . 資料 6

平成 28 年 2 月 1 日

UR 都市機構

本件に係る甘利明事務所秘書との面談対応状況（日時、場所及び応対者）について

年月	時間	場所	応対者
平成 25 年 6 月 7 日	17 : 10～17 : 30 頃	UR 本社	A 秘書 UR 都市施設部職員 A、同職員 B、NT 業務部職員 C
平成 27 年 7 月 6 日	11 : 00～11 : 30 頃	地元事務所 (大和)	B 秘書、C 秘書 UR 総務部職員 D
平成 27 年 10 月 5 日	11 : 00～11 : 30 頃	地元事務所 (大和)	B 秘書、C 秘書 S 社総務担当 I 氏 UR 総務部職員 D
平成 27 年 10 月 9 日	12 : 00～13 : 00 頃	議員会館	C 秘書 UR 総務部職員 D、NT 業務部山本チームリーダー、 NT 業務部職員 F
平成 27 年 10 月 26 日	19 : 00～21 : 00 頃	居酒屋 (横浜市)	B 秘書、C 秘書 UR 中瀬総務部長、総務部職員 H、総務部職員 D
平成 27 年 10 月 27 日	11 : 00～11 : 15 頃	議員会館	C 秘書 UR 中瀬総務部長、総務部職員 H、総務部職員 D
平成 27 年 10 月 28 日	16 : 00～16 : 30 頃	議員会館	C 秘書 UR 総務部職員 D、NT 業務部山本チームリーダー、 NT 業務部職員 F
平成 27 年 11 月 5 日	16 : 00 頃	議員会館通路	C 秘書、UR 総務部職員 D
平成 27 年 12 月 1 日	14 : 00～14 : 30 頃	地元事務所 (大和)	B 秘書 UR 中瀬総務部長、総務部職員 D
平成 27 年 12 月 16 日	10 : 30～10 : 50 頃	地元事務所 (大和)	B 秘書 UR 中瀬総務部長、総務部職員 D
平成 27 年 12 月 22 日	10 : 30～10 : 50 頃	地元事務所 (大和)	B 秘書 UR 中瀬総務部長、総務部職員 D
平成 28 年 1 月 6 日	10 : 30～10 : 50 頃	地元事務所 (大和)	B 秘書 UR 中瀬総務部長、総務部職員 D

- 平成 27 年 7 月 6 日については、同年 8 月 10 日に実施された神奈川県議会議員団による機構の震災復興地区への視察に関する打合せであり、平成 27 年 10 月 26 日については、同視察において、甘利事務所に取り纏めへのご尽力をいただいた御礼の会として簡素に開催されたもの。（飲食代については全額 UR 負担）。
- 平成 27 年 10 月 27 日については、前日に開催した御礼の会に対する挨拶。

以 上

## 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号）

（法人文書の開示義務）

第 5 条 独立行政法人等は、開示請求があったときは、開示請求に係る法人文書に次の各号に掲げる情報（以下「不開示情報」という。）のいずれかが記録されている場合を除き、開示請求者に対し、当該法人文書を開示しなければならない。

- 一 個人に関する情報（事業を営む個人の当該事業に関する情報を除く。）であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と照合することにより、特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）又は特定の個人を識別することはできないが、公にすることにより、なお個人の権利利益を害するおそれがあるもの。ただし、次に掲げる情報を除く。

イ・ロ（略）

ハ 当該個人が公務員等（国家公務員法（昭和 22 年法律第 120 号）第 2 条第 1 項に規定する国家公務員（独立行政法人通則法第 2 条第 4 項に規定する行政執行法人の役員及び職員を除く。）、独立行政法人等の役員及び職員、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第二条に規定する地方公務員並びに地方独立行政法人（地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第二条第一項に規定する地方独立行政法人をいう。以下同じ。）の役員及び職員をいう。）である場合において、当該情報がその職務の遂行に係る情報であるときは、当該情報のうち、当該公務員等の職及び当該職務遂行の内容に係る部分

## 国家公務員法（昭和 22 年法律第 120 号）

第 2 条 国家公務員の職は、これを一般職と特別職とに分つ。

- 2 一般職は、特別職に属する職以外の国家公務員の一切の職を包含する。  
3 特別職は、次に掲げる職員の職とする。

一～十四（略）

十五 国会議員の秘書

## （参考）国会法（昭和 22 年法律第 79 号）

第 132 条 各議員に、その職務の遂行を補佐する秘書二人を付する。

- 2 前項に定めるもののほか、主として議員の政策立案及び立法活動を補佐する秘書一人を付することができる。





一日も早い東北の復興へ  
全力で取り組んでいます

# 東日本大震災における UR都市機構の復興支援

女川町女川駅周辺



山田町織笠地区

塩竈市浦戸寒風沢地区

桑折町桑折駅前地区

——— 街に、ルネッサンス ———



UR都市機構

60年 まちと一緒にこれからも。

平成27年11月1日版





独立行政法人都市再生機構  
(UR都市機構)  
理事長 上西 郁夫

## 復興支援と、さらに安全・安心なまちづくりを目指して

東日本大震災により被災された皆様に心からのお見舞いを申し上げます。

UR都市機構では、発災直後より被災地へ職員を派遣し、復旧・復興活動に取り組んでまいりました。発災から4年半を経過し、事業のピークを迎え工事が本格稼働している現在では、現地400名を超える体制で復興市街地整備や災害公営住宅の建設等に取り組んでいます。

UR都市機構の技術力、住宅・まちづくりの実績・ノウハウを活用し、CM方式による工事発注や造成・住宅建設の一体的な工事等で安全管理、品質管理に努めつつ事業を着実に進めるとともに、中心市街地の再生やコミュニティ形成の支援など復興まちづくりの課題にも積極的に取り組んでまいります。

引き続き、被災された皆様が一日でも早く安心した生活を送れるよう、全力をあげて復興支援に取り組み、より安全・安心なまちづくりに貢献していきます。

## UR都市機構は現地400名体制で復興支援に取り組んでいます。

H23.3

東日本大震災

### 復旧支援

UR賃貸住宅(延べ970戸)の提供。  
応急仮設住宅建設用地(約8ha)の提供。  
応急仮設住宅建設支援要員(延べ181名)、  
宅地危険度判定士(3名)の派遣。

H23.4

17名

岩手県下への派遣開始

H23.7

37名

宮城県下への派遣開始  
バックアップ体制の強化

H23.11

59名

福島県下への派遣開始

H24.4

172名

現地に専任チームを配置

H25.4

303名

現地復興支援事務所を設置

H26.4

400名

2本部体制に組織改編  
現地復興支援体制を強化

H27.4

418名

福島における現地復興  
支援体制を強化  
※H27.11 431名



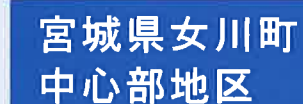
- 震災復興支援本部(盛岡市、仙台市)  
事業の統括、設計、工事発注、契約手続きを行います。
- 復興支援事務所(12箇所)を設置する自治体  
現地に事務所を設置し、市街地整備、住宅整備を推進します。
- 復興まちづくりを支援する自治体  
主に震災復興支援本部を拠点に、市街地整備、住宅整備、事業コーディネート、人的支援等を行います。

## UR都市機構の復興まちづくり支援地区

自治体	市街地整備事業			災害公営住宅建設		コーディネート等
	事業受託地区	計画面積	事業期間(年度) ※清算期間除く	要請地区 (下線は完成地区※一部完成地区含む)	計画戸数	
岩手県	野田村					土地区画整理事業 コーディネート(城内)
	宮古市	田老 24ha	H24~27			
	山田町	大沢 59ha	H24~28	大浦(大浦第1)、大浦(大浦第2)、山田(山田中央)、 織笠(織笠跡浜)、 大沢小学校脇、下条	233戸	
	大槌町	町方 40ha	H24~29	大ケロ、屋敷前、大ケロ二丁目、桧内、町方(末広町)、 寺野、町方(御社地)、町方(本町1・上町)	241戸	工事発注支援 (浪板等5地区)
	釜石市	片岸 23ha	H24~30	花露辺、鶴住居、片岸	155戸	
	大船渡市	大船渡駅周辺 36ha	H25~31	宇津野沢、赤沢、上山、平林、川原、蛸ノ浦、所通東、 山口、川原その2、泊里、後ノ入、大洞、杉下、崎浜	227戸	
	陸前高田市	今泉 113ha	H24~30	下和野、水上、大野、田端、長部、今泉	269戸	
		高田 186ha	H24~30			
	気仙沼市	鹿折 42ha	H24~29	南郷、四反田、鹿折、南気仙沼、気仙沼駅前	1,033戸	工事発注支援 (漁業集落防災機能強化事業19地区等)
	南三陸町	志津川 111ha	H24~30	入谷桜沢、歌津名足、志津川東(第1)、 志津川東(第2)、志津川中央	432戸	
宮城県	女川町	中心部 218ha	H24~30	女川町民陸上競技場跡地、女川駅北、ずい道、 荒立・大道①、荒立・大道③、西区	561戸	戸建災害公営住宅買取事業 を技術支援
	石巻市	離半島部 54ha	H24~28			
		新門脇 24ha	H25~29	大街道西二丁目、泉町四丁目、大街道北二丁目、 中央一丁目、駅前北通り一丁目、中里一丁目、 不動町二丁目、中央一丁目南、門脇	436戸	・工事発注支援 (半島部46地区) ・事業推進技術支援 (市街地部) ・市街地再開発事業支援 (中央二丁目11番)
	東松島市	野蒜北部丘陵 92ha	H24~28	東矢本駅北、野蒜北部丘陵	477戸	
		東矢本駅北 22ha	H24~27			
	塩竈市			伊保石、錦町、浦戸桂島、浦戸野々島、浦戸寒風沢、 浦戸朴島、清水沢、錦町東	355戸	
	多賀城市			桜木、鶴ヶ谷、新田、宮内	532戸	
	名取市			下増田、高柳辻	100戸	
	福島県			内郷宮町、小名浜大原、泉町本谷、北好間中川原、 勿来酒井	753戸	
	新地町			愛宕東	30戸	
福島県	桑折町			桑折駅前	47戸	
	大熊町					事業計画策定支援 (大川原)
	須賀川市					市街地再開発事業支援 (須賀川市八幡町)
	鏡石町					復興まちづくり事業計画策定
	いわき市	薄磯 37ha	H24~28			
		豊間 56ha	H24~28			
22自治体	計22地区		約1,300ha	計85地区	5,881戸	(H27.11.1時点)



土地区画整理事業、防災集団移転促進事業等により、被災した市街地の嵩上げや高台に住宅地の整備を行います。

[illegible]

防災集団移転促進事業

国道45号

土地区画整理事業

土地区画整理事業



# 災害公営住宅整備事業 一被災自治体からの要請により、URが住宅を建設し、完成後譲渡します―

被災により住まいを失われた方、原子力災害により避難を余儀なくされている方のための公営住宅を整備します。



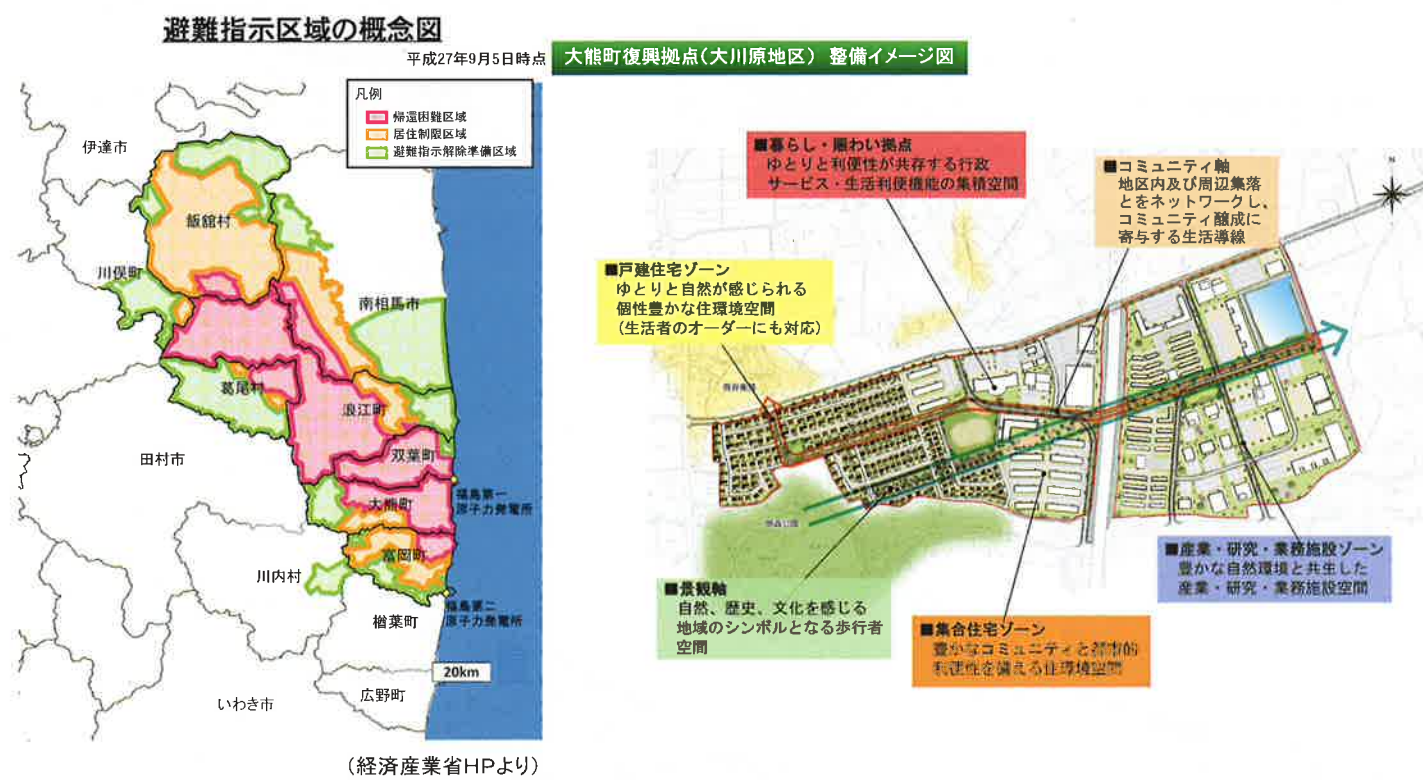
平成27年10月末までに85地区計5,881戸の整備要請を受け、37地区計1,637戸が完成しました。



# 福島県の避難区域等における復興支援

## ○復興市街地整備事業

- 大熊町と平成26年3月に「東日本大震災及び原子力災害からの復興まちづくりの推進に向けた覚書」を交換し、大熊町が行う復興まちづくりについて相互協力を確認。
- 町が平成26年3月31日に策定した「大熊町復興まちづくりビジョン」の中で町土復興・再生の第一ステップとして復興拠点に位置づけられた大川原地区について、6月に「東日本大震災及び原子力災害からの復興まちづくりの推進に関する基本計画検討に係る協定書」を締結し、基本計画検討を協力して推進しております。  
(H26.9受委託契約を締結)



## ○復興公営住宅の整備

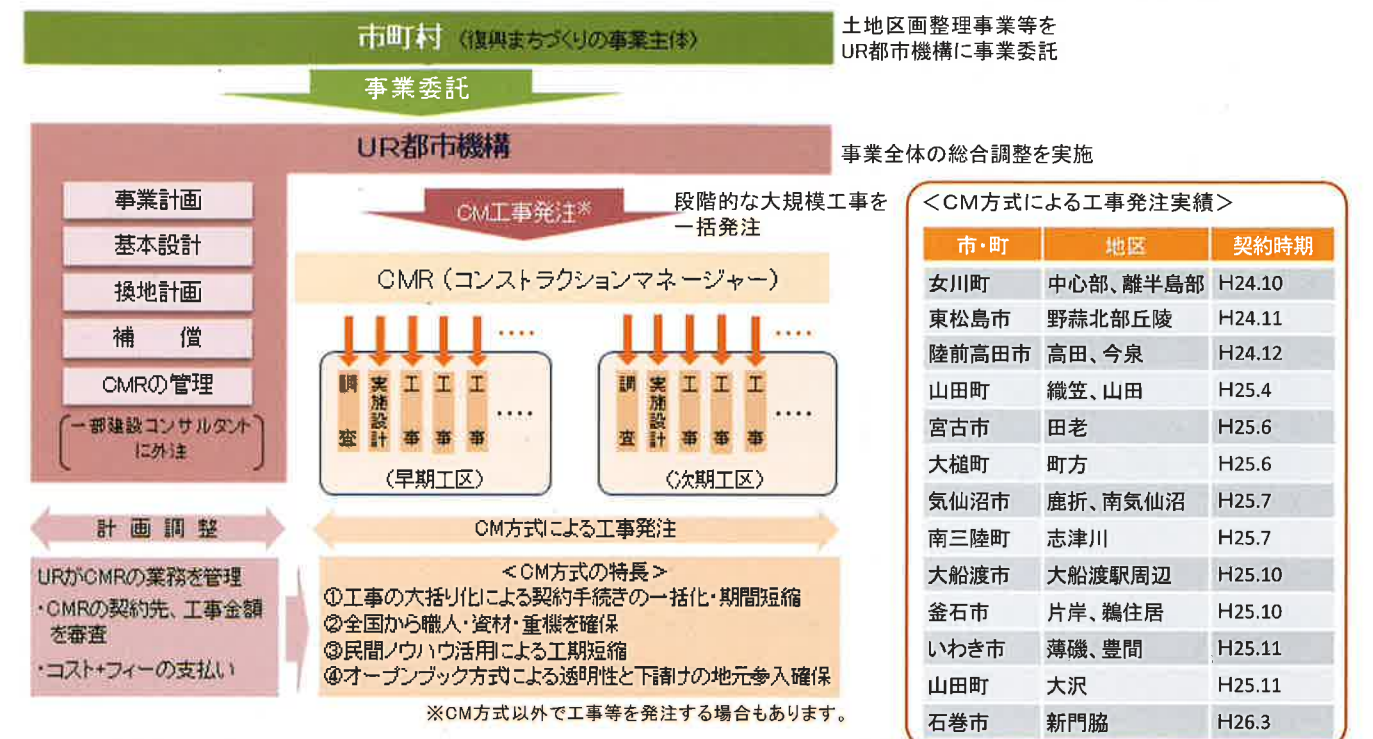
- 福島県と災害公営住宅整備に係る協定締結(H25.11.26)
- 福島県がいわき市に整備する復興公営住宅1,760戸のうち、約800戸について、URが建設予定。
- 《参考》第二次福島県復興公営住宅整備計画(H25.12.20)
- 原発避難者向け復興公営住宅 4,890戸
- 市町村別の整備戸数

福島市	会津若松市	郡山市	いわき市	二本松市	南相馬市	川俣町	三春町	田村市、本宮市、桑折町、大玉村、川内村他
430戸	100戸	570戸	1,760戸	340戸	900戸	170戸	220戸	400戸



# CM(コンストラクション・マネジメント)方式による復興の加速化

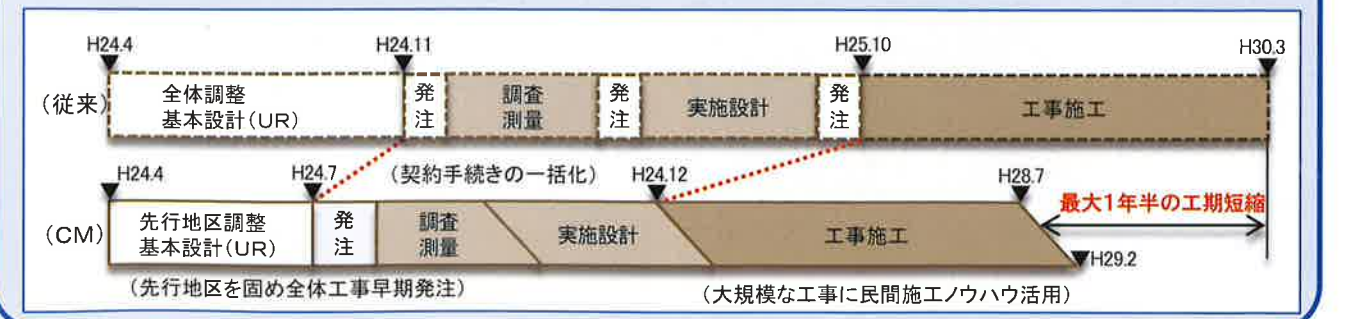
民間ノウハウを活用し、効率的でスピーディーな復興事業を推進するため、段階的な工事を大括り化し、設計・施工・マネジメントをまとめて発注するシステム(CM方式)をURが先導的に導入しています。



## CM方式の活用事例～宮城県東松島市・野蒜北部丘陵地区～



野蒜北部丘陵地区では、仙石線の早期復旧及び集団移転先となる高台宅地の早期完成を目標として、CM方式を活用した基盤整備を進めています。目標達成のためには、高台で発生する大量の土砂をいかに迅速に搬出するかが課題でしたが、URとCMRが相互に連携し、ベルトコンベアを活用して短期間で土砂搬出を完了しました。目標通り、平成27年5月30日には仙石線が全線再開し、平成28年からは高台宅地を順次完成・引き渡す予定です。





## 復興まちづくりコーディネート業務の実施

被災自治体からの委託により、URはまちづくりの実績や技術力を活かし、復興まちづくり事業計画策定業務、工事発注支援業務等を実施しています。

### ○市街地再開発事業支援業務(福島県須賀川市、宮城県石巻市)

- 市庁舎の再建と防災拠点の形成を目指す市街地再開発事業支援業務をURが受託。(福島県須賀川市)
- 被災市街地において、街なかの集客拠点として生鮮マーケットをはじめとした観光交流施設等を再開発事業により整備することを目的とし、市街地再開発事業の事業計画等策定業務をURが受託。(宮城県石巻市)

### ○復興まちづくり総合支援業務(岩手県野田村・城内地区)

- 村より復興市街地整備事業(城内地区土地区画整理事業)のコーディネート業務をURが受託。職員2名を派遣。
- 復興庁・県等関係機関との調整、住民への事業説明会、区画整理審議会運営等をURが中心となって実施。

### ○発注者支援業務

被災自治体の工事発注支援(岩手県大槌町、宮城県気仙沼市、宮城県石巻市)

- 被災自治体が発注する複数地区の復興工事を大括り化し、特に技術力と中立性を要するCM方式による工事発注業務(工事費積算、発注関連図書作成、提案審査等)をURが受託。
- 工事発注後の管理CMRの指導等、URが定期的にフォローアップ。

事業推進技術支援(宮城県石巻市)

- 市内で行われる復興関連工事の事業間調整業務をURが受託。

### ○災害公営住宅買取業務技術支援(宮城県女川町)

- 買取事業スキーム作成、住宅基本計画検討、設計図書・事業費・工事進捗確認等の技術支援業務をURが受託。

## 被災された方々の生業や生活の復興に向けて(ソフト面での支援)

### ○商業・産業誘致の取組み(宮城県気仙沼市・鹿折地区)

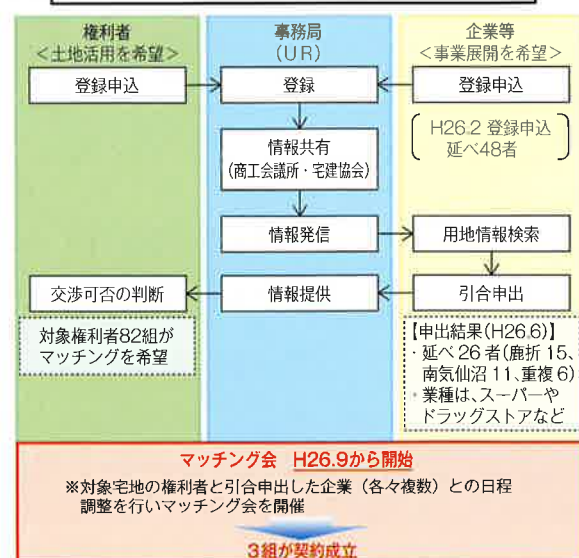
気仙沼市・UR・商工会議所・宅地建物取引業協会が共同で地区内の土地活用希望の地主と進出企業を募集し、マッチングを行います。平成26年9月よりマッチング会が本格始動しています。

○鹿折地区  
土地区画整理事業  
計画面積 約42ha  
事業期間 平成24～29年度  
(清算期間を除く)

住宅系  
商業系  
工業(水産)系



#### 復興まちづくり事業者エントリー制度 (土地活用希望地権者と事業者のマッチング)



### ○地域と入居者をつなぐ取組み(宮城県多賀城市・桜木地区)

- ・地域住民の一時的な避難場所としての津波避難ビルの機能も持たせ、生活相談員が常駐する高齢者生活相談所や子育て支援施設を併設しました。
- ・入居者交流の場として各住棟の2階にはコミュニティデッキに面して「みんなのリビング」という交流スペースを設け、かつ地域との交流の場として、集会所を設置しています。
- ・地域と入居者等をつなぐきっかけづくりとして「みんなの壁」プロジェクトを立ち上げ、震災当時、隣接する桜木保育所に入所していた児童を中心にタイルを使用した壁面アートを制作しました。



### ○入居者コミュニティ形成支援の取組み(集会所の活用)(岩手県大船渡市 平林他3地区)

今まで培ってきた賃貸住宅のノウハウをもとに、入居者の自治組織の立ち上げや集会所等の利用促進、自主的なコミュニティ形成に向け、岩手大学コミュニティ再建支援の専門家に連携をよびかけ、市や自治会のサポートをしました。

入居後、数か月間あまり活用されていなかった集会所を利用し、各地区において住人の方の初顔合わせ、懇親会を実施。



その結果住民のコミュニティが形成、住民主体による書道教室、花植えイベント、お茶っこ(お茶会)等の活動が行われました。



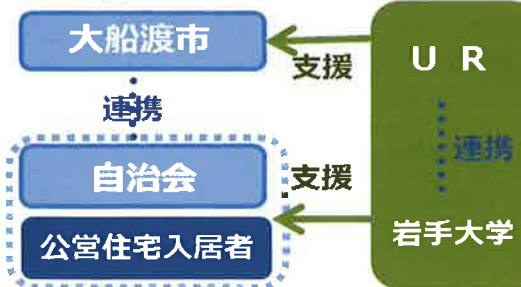
初顔合わせの様子



地図使用承認 昭文社第56G107号



#### 実施体制





## 被災地の復興状況等の発信

### ○東日本大震災復興フォト&スケッチ展の開催

復興への歩みを広く発信し、東日本大震災からの復興を支援するため、『復興の歩み～いとなみ、絆、再生、希望～』をテーマに復興に関する写真・スケッチの公募展を開催しています。

初めての開催となった平成26年度においては、フォト・スケッチあわせて、271点の応募があり、受賞作を中心とした作品の一部について、東京都、岩手県、宮城県及び福島県の計17会場にて作品展を実施しました。

工事の様子や被災地に暮らす方々の日常風景などの作品を通して、多くの方々に復興の現状をお伝えし、来場された方からも、「そこに住む方の思いや生活が伝わりました」「風化させないようにこの企画を続けてほしい」などの声をいただきました。

#### 【昨年度の受賞作品】



～復興の歩み大賞（フォト）～『家族』



～復興の歩み大賞（スケッチ）～『復興の槌音』

今年度においても、『復興の歩み～想い、つなぐ、明日へ～』をテーマに平成27年9月15日まで作品の募集を行いました。審査結果は平成27年12月25日に発表予定です。また、平成28年2月以降には東京都、岩手県、宮城県、福島県にて作品展を行う予定です。

#### お問い合わせ




##### 独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）

（本社）震災復興支援室  
〒231-8315  
神奈川県横浜市中区本町6-50-1  
横浜アイランドタワー8階  
TEL: 045-650-0876 FAX: 045-650-0366

（宮城・福島）宮城・福島震災復興支援本部  
〒983-0852  
宮城県仙台市宮城野区榴岡4-6-1  
東武仙台第1ビル7階  
TEL: 022-355-4531 FAX: 022-291-8891

（岩手）岩手震災復興支援本部  
〒020-0021  
岩手県盛岡市中央通1-7-25  
朝日生命盛岡中央通ビル8階  
TEL: 019-604-3066 FAX: 019-604-3028

2015.11 5,000

領 収 証			
27年10月26日			
UR都市機構 様			
 横浜 市 民 局			
御食料として 上向きにいただきました。			
横浜市神奈川区鶴屋町2-26-1/2F 横浜 市 民 局 TEL・FAX 046-314-8064			
請求者記号(6桁)及び記号		出金者記号(6桁)	
とあり実施したことを確認する。 (平成27年10月27日)		① 同。② 異なる。(下記)	
実施者	実施課長	不参加者	予定外参加者
			

メニュー 前面 終了 中止 システム 申請

申报日期: 2015/10/26 申报者: [REDACTED] 申报类别: 12002 类别: [REDACTED]

発注区分	03	物品・役務	契約形態	03	物品・役務(入札方式)
------	----	-------	------	----	-------------

第1部 12002 北信部(本社)

1200110 本社(代務部長)

契約名称 住宅政策室に係る打合せ費用

省(市、自治区)	14	转东川局	履行纳入场所	转东川局松茂市
----------	----	------	--------	---------

履行・始期期間 2015/10/26 ~ 2015/10/26 ☐ 単価契約 ☐ 月額契約 ☐ リース資産(リース会計適用の場合)

債主名	花菱チー山
-----	-------

案件发生地区	10	東日本	契約額(万円)	50,000
--------	----	-----	---------	--------

発注(別) ☐ C 役務提供 契約内容: 90 その他

代表団地	900000	区分なし
------	--------	------

代表事業	1990	共通版コード(区分無し)
------	------	--------------

代表取締役	12002	総務部(本社)
-------	-------	---------

代表勘定科目:	S101040280	会費或(費用)
---------	------------	---------

交付書額	
------	--

必要理由: \_\_\_\_\_

相手方 立寄払い

39由 立地上の都合及び関係の利益を要するため(会計法第51条第3項第1号による)

干成27年10月26日 冲原川原池湾市西区66号 出落者:中川地務部長、佐藤手一(国会議員)

物品修繕費負担額(大抵額)

物品納入明細(官公需特定10品目内に限る)

NO.	项目	项目名称	金额
-----	----	------	----

物品購入明細合計	0
----------	---

摘要	金額	摘要	金額
1. 現金	50,000	2. 現金	50,000
3. 現金	50,000	4. 現金	50,000
5. 現金	50,000	6. 現金	50,000
7. 現金	50,000	8. 現金	50,000
9. 現金	50,000	10. 現金	50,000
11. 現金	50,000	12. 現金	50,000
13. 現金	50,000	14. 現金	50,000
15. 現金	50,000	16. 現金	50,000
17. 現金	50,000	18. 現金	50,000
19. 現金	50,000	20. 現金	50,000
21. 現金	50,000	22. 現金	50,000
23. 現金	50,000	24. 現金	50,000
25. 現金	50,000	26. 現金	50,000
27. 現金	50,000	28. 現金	50,000
29. 現金	50,000	30. 現金	50,000
31. 現金	50,000	32. 現金	50,000
33. 現金	50,000	34. 現金	50,000
35. 現金	50,000	36. 現金	50,000
37. 現金	50,000	38. 現金	50,000
39. 現金	50,000	40. 現金	50,000
41. 現金	50,000	42. 現金	50,000
43. 現金	50,000	44. 現金	50,000
45. 現金	50,000	46. 現金	50,000
47. 現金	50,000	48. 現金	50,000
49. 現金	50,000	50. 現金	50,000
51. 現金	50,000	52. 現金	50,000
53. 現金	50,000	54. 現金	50,000
55. 現金	50,000	56. 現金	50,000
57. 現金	50,000	58. 現金	50,000
59. 現金	50,000	60. 現金	50,000
61. 現金	50,000	62. 現金	50,000
63. 現金	50,000	64. 現金	50,000
65. 現金	50,000	66. 現金	50,000
67. 現金	50,000	68. 現金	50,000
69. 現金	50,000	70. 現金	50,000
71. 現金	50,000	72. 現金	50,000
73. 現金	50,000	74. 現金	50,000
75. 現金	50,000	76. 現金	50,000
77. 現金	50,000	78. 現金	50,000
79. 現金	50,000	80. 現金	50,000
81. 現金	50,000	82. 現金	50,000
83. 現金	50,000	84. 現金	50,000
85. 現金	50,000	86. 現金	50,000
87. 現金	50,000	88. 現金	50,000
89. 現金	50,000	90. 現金	50,000
91. 現金	50,000	92. 現金	50,000
93. 現金	50,000	94. 現金	50,000
95. 現金	50,000	96. 現金	50,000
97. 現金	50,000	98. 現金	50,000
99. 現金	50,000	100. 現金	50,000
101. 現金	50,000	102. 現金	50,000
103. 現金	50,000	104. 現金	50,000
105. 現金	50,000	106. 現金	50,000
107. 現金	50,000	108. 現金	50,000
109. 現金	50,000	110. 現金	50,000
111. 現金	50,000	112. 現金	50,000
113. 現金	50,000	114. 現金	50,000
115. 現金	50,000	116. 現金	50,000
117. 現金	50,000	118. 現金	50,000
119. 現金	50,000	120. 現金	50,000
121. 現金	50,000	122. 現金	50,000
123. 現金	50,000	124. 現金	50,000
125. 現金	50,000	126. 現金	50,000
127. 現金	50,000	128. 現金	50,000
129. 現金	50,000	130. 現金	50,000
131. 現金	50,000	132. 現金	50,000
133. 現金	50,000	134. 現金	50,000
135. 現金	50,000	136. 現金	50,000
137. 現金	50,000	138. 現金	50,000
139. 現金	50,000	140. 現金	50,000
141. 現金	50,000	142. 現金	50,000
143. 現金	50,000	144. 現金	50,000
145. 現金	50,000	146. 現金	50,000
147. 現金	50,000	148. 現金	50,000
149. 現金	50,000	150. 現金	50,000
151. 現金	50,000	152. 現金	

臨要月日

	规格	数量	单位(件)	金额	备注

	5	10,000	50,000
--	---	--------	--------

[illegible][illegible]

3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	4
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

决裁区分	1	通常决裁	支払希望時期	2015/11/20	<input checked="" type="checkbox"/>
------	---	------	--------	------------	-------------------------------------

平成 28 年 2 月 1 日

UR 都市機構

## 物件移転補償と再配置補償

### ○物件移転補償とは

道路予定地上に存する物件を移転するための補償

### ○再配置補償とは

道路予定地上には存しないが、道路によって土地が分割されることにより、一団で利用することで果たされていた従来の機能が損なわれる場合に、残地上に存する物件についても併せて移転（＝関連移転）するための補償

以上

▽公用制限に違反する建築物に対  
する法第七七条の適用について  
〔昭和三年四月三日 建設省（第四四号）  
訓令第三号第一項から第四項までの関係〕

四月一日付建設省第一〇四号をもって  
照会にかかる標記の件に關し、次のとおり當  
局の意見を回答する。

一 問題

河川（河川法が適用される河川をいう。  
以下同じ。）に關する工事を行うについて  
土地収用法第三〇条の規定による事業の認  
定を受けた河川管理者（河川法第六條第一  
項本文に規定する地方行政庁をいう。以下  
同じ。）が当該事業の用に供するために必  
要とされる土地を土地収用法に基づいて収用  
するにあたり、当該土地に、右の事業に關  
する土地収用法第三〇条の規定による土地  
細目の公告がなされるに先立つて、河川予  
定地制限令第三條の規定による当該府県知  
事の許可を受けないで新築された建築物が  
ある場合には、河川管理者は、右の工作物  
について所有権その他の権利を有する者に  
對して、土地収用法第七七条本文に規定す  
る移転料の補償を行わなければならないも  
のと解すべきであるか。

二 意見

お尋ねの問題は、積極に解する。

三 理由

土地収用法第七七条本文は、同法に基い  
てなされる土地の収用（以下單に「土地の  
収用」という。）にともなう損失補償の一  
環として、「収用……する土地に物

件があるときは、その物件の移転料を補償  
して、これを移転せしめなければならない  
旨を規定しているが、この場合におけ  
る移転料の補償を受けるべき相手方につ  
いては、同条は、直接に触れるところがない。

しかしながら、土地の収用によつて生ず  
る損失の補償に關する一般原則を定めた同  
法第六八條が土地所有者のみならず、関係  
人（その意義については、同法第八條第三  
項を参照。）が受ける損失についても、起業  
者においてこれを補償すべき旨をうたつて  
おり、かつ同法第九八條が関係人に対して  
当該被収用地の中にある物件を移転すべき  
義務を課していることに照らしてみると、  
この場合に移転料の補償を受けるのは、関  
係人、すなわち被収用地「にある物件に關  
して所有権その他の権利を有する者」（同法  
第八條第三項参照）であることは、明らか  
である。

したがつてお示しのような場合に、当該  
工作物について所有権その他の権利を有す  
る者が右の第七七条本文に規定する移転料  
の補償を受けるべきことは、一見明らかで  
あるかのように思われる。

にもかかわらず、お尋ねのような問題が  
提起されるにいたつたゆゑは、恐らく、  
第一には元來お示しの工作物は、河川予定  
地制限令第三條の規定に違反して違法に新  
築されたものであること、第二には、これ  
に關連して、このような工作物について  
は、行政庁はその除却を命じること（河  
川法第二二條参照）及びかりに相手方が  
この義務を履行しない場合にはいづれも代

執行の措置をとらうとともに（河川法第  
五二條参照）、この場合における代執行に  
要した費用は、義務者から徴収すること  
（行政代執行法第五條参照）に徴して、こ  
のような工作物について所有権その他の権利  
を有する者は、当該工作物の移転を余儀な  
くされることによつて生ずべき損失につ  
いては、もとよりその補償を主張すべき法律  
上の地位を占めていないものと解する余地  
があると考えられたからである。

そこで、まず第一の点について考へてみ  
ると、河川予定地制限令第三條は、同令第  
二條の規定に基いて告示された「河川トナ  
ルべき区域ニ於テ其ノ土地ニ圖書シテ施設  
スル工作物又ハ之ニ沿ヒ若ハ之ヲ横過シ若  
ハ其ノ地下ニ於テ施設スル工作物ヲ新築、  
改築若ハ除却」することが河川管理者によ  
る河川に關する工事の遂行の上に支障とな  
るおそれのあることを考慮し、これを府県  
知事の許可にかからざる旨を規定したもの  
であつて、つまり、本条は、河川に  
關する工事の遂行を確保するために、河川  
となるべき区域内の土地に關し、一定の公  
用制限を課したものである。

したがつて、このような公用制限に違反  
して新築された工作物の存在が河川管理者  
による河川に關する工事の遂行に支障を及  
ぼすべきおそれがあることはもちろんであ  
るが、このような河川に關する工事の遂  
行の上にもたらされるべき支障を理由とし  
て、当該工作物について所有権その他の權  
利を有する者に對して土地収用法第七七条  
本文に規定する移転料の補償を否認するこ  
とは、強斷のそしりを免れない。けた

し、このような公用制限に違反して新築さ  
れた工作物についても、國法上所有権その  
他の財産権の成立を認めるものとなされてい  
る以上、このような工作物について所有権  
その他の財産権を有する者が当該敷地の収  
用にもなつてその工作物の移転を余儀なく  
されることによつて生ずる損失について  
明文の規定がないにもかかわらず（土地収  
用法第八九條第一項参照）、これに關する  
補償を否認することは、許されるべくもな  
いからである。

第二の点については、河川法等の關係規  
定の適用によつて、そこに示された措置を  
とりうることはいうまでもないが、そのよ  
うな措置をとらうること、お示しによつ  
て土地収用法に基づく土地の収用にもなつ  
て当該工作物の移転を余儀なくされること  
とは、元來ならぬ關係をもつものでない  
ことは、改めていうまでもあるまい。すな  
わち、お示しの場合のように、以上のよ  
うな河川法の關係規定による措置とは全く  
かわりなく、ひたすら、土地収用法の規  
定に基いて土地が収用される結果として、  
当該工作物の移転が必要とされるにいたつ  
た場合について、河川法等の關係規定を適  
用すれば生ずるであろう事柄を根據とし  
て、土地収用法第七七条本文に規定する移  
転料の補償を否認することは、法規の解釈  
に混亂をきたした結果といふべきであつ  
て、合理的な根據をもつ見解とは認められ  
ない。

以上述べたところにより、お示しの場  
合に当該工作物に關して所有権その他の權  
利を有する者に對し土地収用法第七七条本

文に規定する移転料の補償を否認するとい  
われないことは明らかとなつたから、お示  
しの問題は、積極に解するものが正當であ  
る。

（照会）

昭和三年四月一日 建設省（第四四号）  
訓令第三号第一項から第四項までの関係

標記のことについて疑義があるもので左記  
の点に關する當局の御意見を承知致した  
る。

記

河川予定地制限令第二條の規定により河  
川となるべき区域の告示がなされた後、土  
地収用法第三〇条の規定による土地の細目  
公告がなされる迄の間に、河川予定地制限  
令第三條の規定による許可をうけないで新  
築した建築物のある土地を河川事業の用に供  
するため収用しようとする場合において、  
起業者たる河川管理者は当該建築物について  
土地収用法第七七条による物件の移転料を  
補償しなければならないか。



# 甘利氏会見と食い違い

## 現金授受問題 建設会社担当者が証言

甘利明・前経済再生相の現金授受問題で、現金などを渡した建設会社の総務担当者が31日、朝日新聞の取材に応じた。甘利氏が会見で説明した計600万円の授受以外に、900万円超を秘書に渡していたことを証言した。甘利氏自身の現金授受をめぐる「道路建設の補償交渉のお礼」と述べるなど、趣旨や状況に食い違いをみせている。

### 「甘利氏、ポケットに」 大臣室50万

総務担当者は一色武氏（62）千葉県白井市の建設会社と都市再生機構（UR）との道路建設の補償交渉を担った。甘利氏は会見で、50万円ずつ計1000万円の受領は認めている。一方で、授受を認めていない。一方、授受を認めていない。一方、授受を認めていない。

### 「秘書に昨年15万円53回」

2014年11月20日に秘書が100万円を受け取ったと指摘される授受について、甘利氏の会見で説明はなかった。一色氏は、秘書から「翌月投開票の衆院選の」選挙資金が足りない」と3日前に求められ、建設会社から50万円、一色氏から50万円を現金で神奈川県平塚市の秘書は、一色氏から飲食や金銭授受などの接待を多数回受けていたことを認めている。詳細は後日、弁護士との調査結果を報告する

### 交渉を記録「万に備えて」

一色氏の「告発」は最初に1月21日発売の週刊文春に掲載された。一色氏は情報提供した理由について、「（お金を払ったのに）甘利氏の秘書がやるべきことをしていないことが分かったから」と語った。建設会社の依頼を受けてURとの交渉を担った理由を「千葉県とURが建設会社や社長に、善意的な文書を作成したため」と説明。自身が右翼団体の元構成員だったと明かし、「右翼活動は思想的なもの。行

**甘利氏と秘書と建設会社側をめぐる指摘された主な現金授受**

日付	授受内容	金額
13年11月14日	大臣室で甘利氏に現金50万円	50万円
14年2月1日	地元事務所へ秘書に現金50万円	50万円
11月20日	神奈川県平塚市で秘書に現金50万円	50万円
15年	神奈川県内などで秘書に現金	15万円

言及なし  
一部画像を修整  
一色氏提供

水木しげるさん 8000人が「お別れ」

ベッキヤラクターたちと輪

**折込広告**

東京地検、UR職員ら聴取へ

東京地検特捜部は今後、URの職員らから事情を聴く見通しだ。政治家や秘書が口利きの見返りに対価を受け取る、あっせん利得は、立件の可否を慎重に見極めるとみられる。

同法違反に問うには、甘利氏や秘書が、国会議員や関係者としての権限に基づき影響力を行使していたことが焦点となる。

**折込広告**

東京地検、UR職員ら聴取へ

東京地検特捜部は今後、URの職員らから事情を聴く見通しだ。政治家や秘書が口利きの見返りに対価を受け取る、あっせん利得は、立件の可否を慎重に見極めるとみられる。

同法違反に問うには、甘利氏や秘書が、国会議員や関係者としての権限に基づき影響力を行使していたことが焦点となる。

**簡単!サッと塗るだけ。**

サランドプロ カラーオンリタッチ 白髪かくしEX

生え際・細部も塗りやすいアーチ型ブラシ採用

株式会社 ダリヤ http://www.dariyacosme.com

# 「甘利氏側、口利き認識」

## 秘書、URと金銭交渉か

甘利明前経済再生担当相の現金授受問題で、甘利氏に現金1000万円を手渡したと週刊文春に告発した千葉県丹井市の建設会社秘書担当の「一色武氏」が31日、東京都内で産経新聞の取材に応じ、甘利氏側が口利きを明確に認識していたと証言した。告発した理由については、秘書からの要求に応じ、現金授受や飲食接待を繰り返してきたにもかかわらず、建設会社と都市再生機構(UR)との東道工事をめぐるトラブルの補償交渉が進展しなかったためと説明した。

甘利氏側やURは口利きを否定しているが、一色氏は「公設秘書(辞職)と合っている中で口利きしている」という話をしており、甘利氏は「これを東京の秘書に預けたい」と公設秘書に話したという。一色氏は、甘利氏本人も口利きの認識があったと見解を示した上で「あなたにも責任があるでしょう」と言っていたと明かし、「これが口利きでなければ何なのか」と語った。

甘利氏側はURとの交渉に関する資料は、公

## 告発者「証言」 会見と隔たり

### 現金授受問題

甘利明氏は辞任会見で、建設会社からの金銭授受は認めない一方、50万円入りの封筒を内ポケットに入れたと週刊文春に報じられた点などは明確に否定した。これに対し、産経新聞の取材に応じた同社秘書担当の「一色武氏」は「録音テープがある」と説明。言い分は食い違いをみせている。

甘利氏は会見で、大臣室での50万円授受、平成25年11月について、「封筒をポケットに入れていない」と否定。「政治家以前に人間として品格を疑われる」と言い切った。

これに対し、一色氏は「立ち会っていた人がいた」と反論。また、26年2月には地元事務所、URとのトラブルの経緯をまとめた資料を持っていくように言われたため、甘利氏に「A4(用紙)2枚」といって(資料を)見せたという。その後、公設秘書の合図で封筒に入った50万円を手渡すと、甘利氏は公設秘書に「パーティー券として扱った」と指示。一色氏は「私個人で陳情させてもらっているの、個人的に受け取っていたんだ」と証言した。

甘利氏は「全て認めて」との認識を示した上で、



## 「会うたび15万円」

一色武氏との一問一答は次の通り。

甘利氏は大臣室での50万円授受について、封筒をポケットに入れていないと説明しているが、「何人か立ち会っている。事実だ」と証言した。

甘利氏の地元事務所での50万円授受は、「URとの交渉経緯の資料を見てもらった後、公設秘書(辞職)の合図で封筒に入った50万円を渡した。甘利氏が「パーティー券として扱った」と指示したので、私は「個人的に受け取っていただけじゃないか。この件よろしくお願ひします」ということで渡した。

甘利氏側、UR側とも口利きは否定している。

「公設秘書から『一色さんの方で金額を提示しなかったので交渉が進まなかった』と言われた。録音もある。これが口利きでなければ何なのか」

公設秘書らへの接待、現金授受は「会うたびに現金15万円を渡し、飲食もしている。20万円や25万円の時もあり、2年4カ月で計53回現金を渡していった。私が終わらせた後に、公設秘書が『例のもの(現金50万円)』と言ってきた」

「あなたにも責任あるでしょう。おかしくないですか」と言いたい。甘利氏は日本にとって大切な方だと思うが、私に対してやっていることは違う。

### 現金授受をめぐる甘利氏と一色氏の主張

日付	現金授受の経緯	甘利氏の説明	一色氏の説明
平成25年			
8月20日	神奈川県大和市の地元事務所へ秘書に500万円渡す	100万円を自民党神奈川県第13選挙区支部、別の100万円は神奈川県大和市第2支部の政治資金収支報告書に記載。300万円は秘書が私的に使った	1000万円を渡し、500万円は金とされ、500万円分の領収書を切らされた
11月14日	大臣室で甘利氏に50万円渡す	1000万円を出され、「そのような多額の献金は受け取れない」と500万円を受領	残りの500万円は「いつでも使えるように持っていてください」と言われた
26年			
2月1日	大臣室訪問のお礼と政治活動応援の趣旨で、秘書に「適正に処理しておくように」と指示	現金入り封筒をスーツの内ポケットに入れたことを否定	「何人か立ち会っている。(ポケットに入れた) 事実だ」と証言



一色武氏が平成25年8月に500万円を渡した際に、甘利氏の公設秘書から受け取ったという領収書2枚



後日、公設秘書から「先日の100万円の領収書をこれに替えてほしい」と言われて渡されたという領収書

「今、主人がいる『あちらの世界』には僕らのタネがたくさんあって、新しいストーリーを思いついていることだし。妖怪やあの世と親しかったのですから」。

お別れの会の席上、喪主の妻、武良布枝さん(84)は穏やかな表情でこう語った。

戦時中、激戦地だったラバウルで左腕を失い、戦後は貧困と闘いながら描き続けた「妖怪」を呼び覚ました。「結婚当初からひた



人々の心に「妖怪」呼び覚ます

## 出席者

### ○ 国土交通省

総務課長 坂根 工博

住宅企画官 金井 甲

### ○ 都市再生機構（UR）

審議役（ニュータウン担当） 間下 滋

総務部長 中瀬 弘実

経営企画部企画チームリーダー 鎌原 宜文

## 郷原信郎が斬る

組織をめぐるあらゆる問題を、「社会の要請に応える」というコンプライアンスの視点から考えます。

## 甘利問題、検察が捜査着手を躊躇する理由はない

投稿日: 2016年1月30日

週刊文春で、都市再生機構（UR）への「口利き」「金銭授受」の疑惑を報じられていた甘利明衆議院議員が、1月28日に行った記者会見で、大臣室での50万円を含め合計100万円の自らの現金受領と、秘書が500万円を受領したことを認めた上、大臣を辞任した。「口利き」の依頼者側が、面談や金銭授受の場면을録音していると報じられたことから、その録音記録に反しない範囲で最大限自己に有利な説明をしようとしたが、どうしても現金授受は否定できなかったということであろう。

大臣室で、業者から、URとの補償交渉についての相談や依頼を受けて対応し、その場で現金を受領したというのであるから大臣辞任は当然である。甘利氏が自らと秘書の金銭受領を認めたこと、その直後に、UR側が、甘利事務所との12回にわたる接触を認めたことで、この件があっせん利得処罰法違反（「あっせん利得罪」）等の犯罪に該当するか否かに焦点が移った。

### 高井康行弁護士による「あっせん利得罪不成立」論の誤り

あっせん利得処罰法違反の成否について、私は、当初の文春記事のコメントでも、当ブログ[【甘利大臣、「絵に描いたようなあっせん利得」をどう説明するのか】](#)でも、成立の可能性が十分にある事件であることを指摘してきたが、新聞、テレビ等では、「あっせん利得罪は成立しない」「違反に問うことは困難」との検察OB弁護士の法律専門家見解が、多数掲載されている。

その中でも、とりわけ多数のメディアで、「甘利経済財政・再生担当大臣には、国交省所管のURに対しては直接的な影響力はないので、違反は成立しない」と半ば断定的に述べているのが高井康行弁護士だ。

しかし、あっせん利得処罰法で処罰の対象としているのは、「衆議院議員、参議院議員又は地方公共団体の議会の議員若しくは長」及びその秘書であり、国務大臣は含まれていない。つまり、自治体の首長が主体とされている一方で、総理大臣や国務大臣は除外されているのだ。

同法違反は「権限に基づく影響力の行使」を要件としているが、甘利氏や秘書の場合であれば、「衆議院議員としての権限に基づく影響力」が問題になるのであり、国務大臣としての権限や所管は問題にならない。高井弁護士の見解は、法律の条文自体を読み違えている。職務権限との関連が問題となる贈収賄罪と混同しているのではないか。

### 「権限に基づく影響力の行使」とは

では、国会議員の場合、「権限に基づく影響力」と、それを「行使して」というのはどういう意味か。

「国会議員の権限」とは、議院における議案発議権、評決権、委員会における質疑権等である。議員立法で成立したこの法律の立案者が国会審議で行った答弁では、国会議員の「権限に基づく影響力」とは、「権限に直接又は間接に由来する影響力、すなわち職務権限から生ずる影響力」のみならず、法令に基づく職務権限の遂行



に当たって当然に随伴する事実上の職務行為から生ずる影響力をも含む」とされている。立案者の一人である公明党の漆原良夫議員の逐条解説でも、同様の解釈が示され、「他の国会議員への働きかけも、国会議員としての職務権限に密接に関連するものであり、そのような行為を行い得ることによる影響力も、『その権限に基づく影響力』に含まれる」と解説されている。

そして、同逐条解説では、「影響力を行使して」とは、「権限に基づく影響力を積極的に利用すること」であり、「被あっせん公務員の判断に影響を与えるような形で、被あっせん公務員に影響を有する権限の行使・不行使を明示的又は黙示的に示すこと」だとされている。

国会議員は、議員個人の権限として、「質問」「表決」を行うことができるが、それだけでは、「影響力」は限られる。それ以上に重要なのは、議院において法律・予算等を多数決で成立させることに關して、他の議員への働きかけを行い、多数の意思を形成することである。法律や予算は、通常は、議会において多数を占める与党の賛成で成立するのであり、その点に關しては、議員が、与党議員であり、与党内で影響力を持つ有力議員であることは、「国会議員としての権限に基づく影響力」の大きさの要素だと言える。

そして、有力閣僚であることは、与党の有力議員として与党内における意見形成においても、他の国会議員よりも大きな影響力があり、それだけ「権限に基づく影響力」も大きいと言える。与党の有力議員やその秘書が、与党として法律・予算の議決や主要人事への同意等に影響を与え得る立場にあることを、話題に持ち出したり、ほのめかしたりして、あっせんを受ける公務員に職務を行わせようとする場合にも、「権限に基づく影響力の行使」があったと認められる余地がある。

高井弁護士は、「議員としてUR側に『何とかしなければ国会で質問する』などと言った場合は抵触する可能性があるが、閣僚の甘利氏は国会で質問する立場にない」などとも述べているが（日経）、「国会での質問をちらつかせて要求する」というような行為で報酬を得るのは、国会議員の職務に關連する「収賄」の典型事例であり、そのような場合しか適用できないとすれば、あっせん利得処罰法を制定した意味は全くない。

あっせん利得処罰法は、国会議員の職務権限と直接關係がないために収賄罪による処罰の対象とならなかった「政治活動と密接な關係があるあっせん行為（口利き）」による利得の獲得を一定の範囲で処罰の対象にするために制定されたものだ。高井弁護士は、このような法律の制定の趣旨や存在意義を理解しないで発言しているとしか思えない。

## 甘利氏とURの關係と「議員の権限に基づく影響力」

甘利氏や秘書とURの關係について言えば、「議員の権限に基づく影響力」に關して、次のような背景がある。

まず、URは、国が100%出資している独立行政法人である。現職出向・OBを含め国土交通省出身者が多く、理事長も歴代国土交通省OBだったが、民主党政権時代に、民間人が理事長に就任し、現在に至っている。

URは、賃貸事業など民間企業と競合する事業を多く行っているが、巨額の財政投融資によって経営が支えられ、巨額の有利子負債を抱えていることから、民営化や存続の可否を含めた組織の在り方についての議論が重ねられてきた。

2007年の「独立行政法人整理合理化計画」で当時の渡辺喜美行革担当大臣がURを民営化する方針を打ち出して以降、その後の民主党政権下においても、民営化がしばしば遡上に上ってきたが、自民党への政権交代後は、その議論は下火となり、現在も独立行政法人として存続している。

このような経過から、URという組織は、その時々の方針の意向に大きく左右される面があり、政治に対しては極めて脆弱な組織だと言える。

とりわけ、民営化の方針を打ち出した渡辺喜美氏の後任として、2008年に麻生内閣での行革担当大臣に就任した甘利氏は、2012年に自民党が政権に復帰して以降、有力閣僚として自民党内での影響力を維持してきたのであるから、URをめぐる問題については与党内で相当大きな発言力を持ち、URに対しても、組織の在り方や理事長の同意人事等を通して非常に大きな影響力を持っていたと考えられる。

このような、URに関連のある閣僚ポストも経験した与党の有力議員としての甘利氏とURとの関係が、まず、「議員としての権限に基づく影響力」の背景になっていると言えよう。

甘利氏本人と秘書がS社側から金銭を受領した事実を認めているのであるから、甘利氏の秘書とURとの間で繰り返された多数回の会合の中で、秘書が、S社にとって有利な補償額を引き出そうとして、上記のような甘利氏のURに対する影響力に関連するような発言をしたり、暗黙のうちにそれを誇示したりした事実があれば、秘書が「議員の権限に基づく影響力を行使した」とされ、あっせん利得罪が成立する可能性がある。また、権限に基づく影響力の当事者である甘利氏自身が、URに対して直接、或いは、国交省を通じて、S社からの依頼に関して何らかの連絡をとったとすれば、甘利氏本人にも、あっせん利得罪が成立する可能性がある。

このように考えると、今回の甘利氏と秘書の問題は、あっせん利得罪として立件・起訴に持ち込める可能性が十分にあり、検察当局が、積極的に捜査を進めていくべき事件だと言えよう。

### あっせん収賄罪成立の可能性も

週刊文春のコメントやこれまでのブログでは触れていないが、今回の甘利氏や秘書の問題に関しては、あっせん利得罪や政治資金規正法違反のほかに、もう一つ成立の可能性がある犯罪がある。

それは、刑法197条の4の「あっせん収賄罪」である。

同罪は、「公務員（①）が請託を受け、他の公務員（①）に職務上不正な行為（②）をさせるように、又は相当の行為をさせないようにあっせんをする」ことの対価として賄賂を受け取った場合に成立する。

国会議員で国務大臣であった甘利氏も秘書も特別職国家公務員に該当し、UR職員には、「みなし公務員規定」があるので（都市再生機構法10条）、あっせんの対象となる公務員に該当する（①）。

あっせん収賄罪（懲役5年以下）が、あっせん利得罪（懲役3年以下）と異なるのは、「不正な行為」（②）が要件とされていることである。

S社側が、甘利大臣側に依頼した、補償交渉の案件は二つあり、一つの案件に関しては、当初、1600万円の補償しか行われていなかったが、甘利事務所が交渉に加わった後に、2億2000万円が支払われた（A案件）。もう一つの案件に関しては、隣地に関してURが産業廃棄物の処理費用30億円を負担したことから、S社はURに同様の補償を要求し（B案件）、その後、甘利事務所が交渉に介入したが、結局、補償は行われないうえ、本件が週刊誌報道されるに至った。

一般的に言えば、いくら「権限に基づく影響力の行使」を受けたからと言っても、公務員やUR職員が「不正行為」まで行うことは考えにくい。

A案件については、実際に、S社に2億2000万円が支払われているが、それは、補償金の支払について、甘利事務所側からの働きかけを受けたUR側が、適法に行い得る範囲で、最大限に有利な金額としてS社側に支払ったのが2億2000万円ということだったのだろう。

それに対して、B案件の方は、産廃処理費用をURに負担させることは、適法に行い得る範囲を超えていたから、結局、支払われないまま終わったのではないか。そうであれば、そのS社側の要求は、「不正な行為」を求めるもので、そのことを認識して、甘利氏又は秘書が、UR側に要請したとすれば、「不正行為のあっせん」に該当する可能性がある。

### 検察にとって捜査着手を躊躇する理由はない

前のブログ【[甘利大臣をめぐる事件で真価を問われる検察](#)】でも述べたように、今回の週刊誌報道で表面化した甘利氏をめぐる問題は、度重なる不祥事で信頼を失墜した検察にとって、その威信を回復する「千載一遇のチャンス」だ。

甘利氏が、S社からの現金100万円の受領と秘書の500万円の受領を認めて大臣を辞任し、URが、甘利事務所秘書との12回にわたる面談の事実を認めた。

前に述べた、甘利氏の有力与党国会議員としての、URとの浅からぬ関係と、その影響力も含めて考えると、あっせん利得罪又はあっせん収賄罪の事件として、これだけ、好材料が揃った事件はない。しかも、秘書2名については、比較的立件が容易な政治資金規正法違反（300万円分の収支報告書虚偽記入）と業務上横領という、身柄確保のための「入り口事件」もある。

検察のストーリーに合わせた調書を不当な取調べをしてでもとるという旧来の特捜の捜査手法を使わずとも、搜索差押による関連証拠の入手と適正な取調べを淡々と行うことで、捜査の展望は開けるはずである。

甘利氏の大臣辞任によって、憲法75条の「国务大臣は、その在任中、内閣総理大臣の同意がなければ、訴追されない。」という規定による制約も予算審議への影響を考慮する必要もなくなった今、検察にとって、捜査着手を躊躇する理由はない。

カテゴリー: [政治](#) | [1件のコメント](#)

## 甘利大臣をめぐる事件で真価を問われる検察

投稿日: [2016年1月22日](#)

昨日のブログ【[甘利大臣、「絵に描いたようなあっせん利得」をどう説明するのか](#)】で、週刊文春で報じられた甘利明大臣や秘書が業者からUR（都市再生機構）の道路用地買収の補償問題で「口利き」を依頼され、金品を受け取った疑惑について、記事の内容を前提に、あっせん利得処罰法違反の成否に関する解説を行った。

結論としては、①「契約」に関するものと言えるか、②「請託」があったと言えるか、③「権限に基づく影響力の行使」があったと言えるか、についての弁解・主張は出て来るであろうが、速やかに捜査に着手し、事実

○公職にある者等のあつせん行為による利得等の処罰に関する法律（平成12年11月29日法律第130号）

（公職者あつせん利得）

第1条

1 衆議院議員，参議院議員又は地方公共団体の議会の議員若しくは長（以下「公職にある者」という。）が，国若しくは地方公共団体が締結する売買，貸借，請負その他の契約又は特定の者に対する行政庁の処分に関し，請託を受けて，その権限に基づく影響力を行使して公務員にその職務上の行為をさせるように，又はさせないようにあつせんをすること又はしたことにつき，その報酬として財産上の利益を収受したときは，3年以下の懲役に処する。

2 公職にある者が，国又は地方公共団体が資本金の二分の一以上を出資している法人が締結する売買，貸借，請負その他の契約に関し，請託を受けて，その権限に基づく影響力を行使して当該法人の役員又は職員にその職務上の行為をさせるように，又はさせないようにあつせんをすること又はしたことにつき，その報酬として財産上の利益を収受したときも，前項と同様とする。

（議員秘書あつせん利得）

第2条

1 衆議院議員又は参議院議員の秘書（国会法（昭和22年法律第79号）第132条に規定する秘書その他衆議院議員又は参議院議員に使用される者で当該衆議院議員又は当該参議院議員の政治活動を補佐するものをいう。以下同じ。）が，国若しくは地方公共団体が締結する売買，貸借，請負その他の契約又は特定の者に対する行政庁の処分に関し，請託を受けて，当該衆議院議員又は当該参議院議員の権限に基づく影響力を行使して公務員にその職務上の行為をさせるように，又はさせないようにあつせんをすること又はしたことにつき，その報酬として財産上の利益を収受したときは，2年以下の懲役に処する。

2 衆議院議員又は参議院議員の秘書が，国又は地方公共団体が資本金の二分の一以上を出資している法人が締結する売買，貸借，請負その他の契約に関し，請託を受けて，当該衆議院議員又は当該参議院議員の権限に基づく影響力を行使して当該法人の役員又は職員にその職務上の行為をさせるように，又はさせないようにあつせんをすること又はしたことにつき，その報酬として財産上の利益を収受したときも，前項と同様とする。



○刑法（明治40年4月24日法律第45号）

（あっせん収賄）

第197条の4 公務員が請託を受け、他の公務員に職務上不正な行為をさせるように、又は相当の行為をさせないようにあっせんをすること又はしたこと報酬として、賄賂を収受し、又はその要求若しくは約束をしたときは、5年以下の懲役に処する。

出席者

○ 弁護士 郷原 信郎 氏

○ 法務省

刑事局参事官 上原 龍

平成 28 年 2 月 1 日

国土交通省住宅局

平成 28 年 2 月 1 日 10 時 00 分に開催された  
「民主・維新甘利大臣疑惑追及チーム」の国土交通省に対するご質問と回答

1. 平成 27 年 3 月 12 日に前住宅局長に報告した資料はこれだけか。

平成 27 年 3 月 12 日の前住宅局長への報告時に作成した資料は、本日 10 時 00 分に開催された「民主・維新甘利大臣疑惑追及チーム」に提出した「別紙 1」のみであり、その他の資料は存在しない。



**「週刊文春（1月28日号・2月4日号）」記事に関する  
事実関係の調査結果について（追加）**

県道千葉ニュータウン北環状線事業に関する平成28年1月発売の週刊文春（1月28日号・2月4日号）の記事に係る事実関係について、甘利明事務所秘書と当機構との面談の内容を別添のとおり公表します。

※ 別添資料については、「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」（平成13年法律第140号）及び関連規定に基づき、不開示部分を墨塗り処理しております。

お問い合わせは下記へお願いします。

本社 広報室報道担当 松尾、林田、加藤  
（電話）045-650-0887（直通）



対応記録メモ

日時：平成25年6月7日（金） 17:10～17:20

先方：経済再生大臣甘利明秘書 [REDACTED]

応対：都市施設部 企画チーム [REDACTED]

関連公共施設チーム [REDACTED]

ニュータウン業務部 事業管理チーム [REDACTED]

内容：

（先方）

新住事業（千葉NT）の関連公共事業で直接施行中の、千葉NT北環状線の補償案件について、[REDACTED]

（[REDACTED] 北環状線事業用地で、機構が用地買収をおこなっているが、[REDACTED]

甘利事務所は私以外の人間が対応している。

[REDACTED] 状況の確認をしたい。

（機構）

内容証明は、千葉ニュータウン事業本部で受け付けしている。

案件の対応についても、千葉ニュータウン事業本部で検討していると聞いている。詳細は把握していない。

弁護士事務所よりの内容証明であったので、機構も弁護士を通じて回答することになると思われる。

（先方）

状況は了解した。

こういった相談を受けることが多く、いちいち対応することは考えていない。

・本件に関し、甘利事務所に引き続き対応する事項は特になし。

・上記内容については、総務チーム（国会班）[REDACTED]主査

CC室コンプライアンスCS推進チーム 藤島TL、[REDACTED]主査に口頭で一報済

以上

受 付	27 年 7 月 6 日 (月) 11 : 00
	総務チーム ■■■

依頼者	<div> <div> <div>衆</div> <div>・ 参 (自民)</div> </div> <div> <div>あまり</div> <div>あきら</div> <div>甘利 明 (2-514)</div> </div> </div>
	<div> <div>■■■ 秘書 ■■■</div> <div> <div>神奈川13区</div> <div>(大和市、海老名市、座間市、綾瀬市)</div> </div> <div> <div>会 館 03-3508-7528</div> <div>会館 F A X 03-3502-5087</div> </div> </div>
日付	内 容
27.7.6 11:00	<p>&lt;地元事務所にて面会&gt;  先方：■■■秘書、■■■秘書 (■■■)  当方：国会班■■■  持参資料：地区概要資料「東松島市野蒜北部丘陵地区」(パワポ)、  「東日本大震災震災復興支援事業3年の歩み」×5部  「東日本大震災におけるUR都市機構の復興支援」×5部</p> <p>(機構) 先日、ご相談頂いた件で資料等を持参した。早速であるが、具体的な話を頂戴したい。  (秘書) 申し訳ない。詳細はこれから確認するが、  ・ 8/10 (月) ~ 8/13 (水) の3日間 (うち、8/10にUR視察)  ・ 概ね20数名が視察に参加  ・ 現地にはJR仙石線に乗りして向かいたい。  という要望である。</p> <p>(機構) 承知した。当日は、震災復興本部の現場事務所長で対応させて頂く予定である。後日で構わないので、視察人数、視察の全行程、交通手段及び先方の連絡先を教えてください。</p> <p>(秘書) 了解した。ご存知のとおり、神奈川も海に面している県であり、今回の高台移転の事業を参考としたいようだ。</p> <p>(機構) 是非、見学頂きたい。パンフレットにも記載があるとおり、野蒜地区の他にも、復興支援事業を行っているので、都合がつけばご覧いただければと思う。</p> <p>(秘書) ありがとう。詳細を確認した後、当方から連絡する。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>

受 付

27 年 10 月 5 日 (月) 11 : 00

総務チーム

依  
頼  
者

衆 ・ 参 (自民)

あまり あきら

甘利 明 (2-514)

秘書

神奈川13区  
(大和市、海老名市、  
座間市、綾瀬市)

会 館 03-3508-7528

会館FAX 03-3502-5087

日付

内

容

27.10.5  
11:00

<地元事務所にて面会>

(秘書) 突然、申し訳ないが、話を聞いて欲しい。 (株) という土木工事の会社を知っているか。 話を聞いてもらいたい。

(機構) 存じ上げないが、承知した。

<地元事務所にて面会>

先方: 秘書、秘書 ( )、氏 ( ) (株) 総務部

当方: 国会班

(氏) URが千葉県企業庁から受託している千葉NT北環状線道路整備工事についての相談である。当該工事では、うちの敷地の一部を道路が通る計画となっており、当該土地を移転することで、移転補償の契約も締結したところ。

(機構) これまで、何度か協議をしていたのか。

(氏) 菅沼氏 (千葉NT事業本部事業部工事TL) と、氏 (首都圏NT本部千葉業務部業務推進T) と協議してきた。 に要望書を出して、 付で回答を頂いている。回答書によれば

(秘書) 私見だが、URの回答は前向きな回答だと思うが。

(氏)

(機構) 不服であることは弊社担当者に伝えたのか。

(氏)

(機構) 即答はできない。一度、本社の担当部門に相談してみる。

(氏)

※ここまでで氏退席。

(機構) いずれにせよ、事実確認を行い、一度、結果を報告する。その後、先方への回答について相談させて頂きたいが如何か。

(秘書) その方が良い。状況がわかったら教えて欲しい。

(機構) 承知した。

以 上

受 付

27 年 10 月 5 日 (月) 11 : 00

総務チーム

依頼者

衆・参 (自民)

あまり あきら

甘利 明 (2-514)

秘書

神奈川13区  
(大和市、海老名市、  
座間市、綾瀬市)

会 館 03-3508-7528  
会館FAX 03-3502-5087

日付

内

容

27.10.9  
12:00

<議員会館にて秘書と面会>

先方: 秘書

当方: NT 業務部販売業務 T 山本 TL、主査、国会班

道路用地買収に係る (株) への移転補償についての経緯等を説明

- ・ 用買対象地上の移転補償費のほか、従前機能確保の観点から も含めた全ての物件について買収対象外の残地内での再配置補償費を支払い済み。
- ・ その後、千葉県から、当該地中に産業廃棄物があるため残地内での建物建築等は認められない旨の指導が入った。
- ・ これを受けて こととで現在協議中。
- ・ 北環状線整備は、鋼管杭打設までは機構、道路用地下の産廃撤去等は企業庁、道路整備は千葉県という役割分担。

(秘書) 当事者は自分に都合の良いことしか言わないため双方から話を聞きたく今日説明をお願いした。いろいろ経緯があることは今日初めて知った。

これまでいくら、何回 (補償金) を支払っているのか。回数だけでも構わないが。

(機構) まず、①用買対象地上の移転補償、②残地内での建物等再配置補償、③工事に起因する の修復及び 費については既に支払済み。

④ ⑤ が現在協議中。

(秘書) そんなに補償しているのか。工事はいつ完了するのか。

(機構) 道路全体としては、当該部分のみが完了していない状況。完了は平成 29 年度末を予定。

(秘書) 工事が止まっているのでは。

(機構) 機構が施工する鋼管杭打設工事により に損傷が発生したとの申し出があり、昨年 12 月から当該工事を中断していたが、先方と協議合意の上で が完了したため間もなく工事を再開する。

(秘書) であれば工事スケジュールはもっと遅れるのでは。

(機構) 遅れを踏まえて平成 29 年度末の完了予定。

(秘書) 率直な意見だが、当該地から速やかに移転してもらった方が良いのではないか。

(機構) そのための 補償に関して鋭意協議しているところ。

(秘書) 費用も含まれているのか。

(機構) 費用は補償できないが、

正直、現提示額は基準上の上限目一杯でありこれ以上はど うすることもできない。公的機関であり民間企業のように自由は利かない。

(秘書) その他に の補償もするのではないのか。

(機構) 費用も 提示済。

(秘書) では何の問題があるのか、機構は至って前向きな対応だと感じるが。

(機構) について、機構は を想定・積算しているが、先方は を要求しており、ここに大きな乖離がある。また、 についての主張。



(秘書) 補償が満足いかない額だから 費で上乗せを、と考えているということか。

(機構) そういうことかもしれない。

(秘書) 補償はいくら提示したのか。教えられる範囲で構わない。

(機構) ちなみに建物等再配置補償は2.2億支払い済み。

(秘書) 本件は結局カネの話か……。やはり当該地から速やかに移転してもらった方が良いと思うが。

(機構) 機構もそう思っているので目一杯の条件提示をしている。

(秘書) これだけ補償してきていてそれでも補償するのか。

(機構) 機構も残置を認めてしまっている以上、機構工事に起因する損傷に対する修復費の補償はせざるを得ない。

(秘書) その都度付き合うことになるがその覚悟はあるのか。少しイロを付けてでも地区外に出ていってもら方が良いのではないか。このままでは同じ事が繰り返されるだけだと思うが。

(機構) 但し、ご理解いただけなくても と考えている。先方とのやり取りが当面続くことは覚悟している。

(秘書) 話はだいたいわかった。今後についてだが、こういう経緯があると知らなかったとはいえ先方から話を受けてしまった以上は先方に何らか返さなければならない。については、事務所の顔を立てる意味でも、一度先方からの話を機構本社で聞いてもらうことは可能か。

(機構) 本社が話をしても現場と同じ話しかできないし、補償等に係る権限は千葉地域担当推進役にあるので、引き続き現場で責任を持って対応させていただくと言っていたとお返しいたい。

(秘書) 主旨は理解するが……。ただ先方の話を聞いてもらうだけで良い。甘利事務所の顔を立ててもらえないか。何とかお願いしたい。

(機構) ……承知した。 誰が対応しても機構の立場に変わりはないので、 ではなく本社職員による対応ということで宜しいか。

(秘書) それで充分だ、宜しくお願いしたい。本件はうちの事務所ではどうにもできないし、圧力をかけてカネが上がったなどあってはならないので、機構本社に一度話を聞いてもらう機会をつくったことをもって当事務所は本件から手を引きたい。

(機構) 承知した。詳細については後日調整等させていただく。

以 上

受 付

27 年 10 月 5 日 ( 月 ) 11 : 00

総務チーム ■■■

依頼者

衆 ・ 参 ( 自 民 )

あまり あきら

甘利 明 (2-514)

秘書 ■■■

神奈川県  
(大和市、海老名市、  
座間市、綾瀬市)

会 館 03-3508-7528  
会館 F A X 03-3502-5087

日付

内

容

27. 10. 28  
16 : 00

< 議員会館にて秘書と面会 >

先方 : ■■■ 秘書

当方 : NT 業務部販売業務 T 山本 TL、■■■主査、国会班■■■

( 機構 ) ■■■ U R ・ ■■■ 氏面会后、■■■ 氏から電話が入ったとのことだったが、どのような主旨だったのか。

( 秘書 ) 私が直接受けたわけではなく、電話に出た別の者から間接的に聞いた。■■■ と先方は言っていたとのこと。

先日、「事務所の顔を立てて欲しい」とお願いし交渉のテーブルを作ったというつもりだったのだが何故こうなったのか。U R を責めるつもりはなく、事情が良く分からないので教えて欲しい。

( 機構 ) 冒頭、面会に至った経緯を聞かれたため「甘利事務所の■■■ 秘書から本社も出席し先方の話を聞いて欲しいという主旨の依頼があったため」とお答えした。

( 秘書 ) え？わざわざそんな確認をしてきたのか？U R 回答に何の問題もないが。

( 機構 ) 続いて、面会のテーマは何かと聞かれたため「■■■ への対応について」とお答えした。

( 秘書 ) 別に問題ない。

( 機構 ) その後、先方は過去の経緯等含め様々なことについて■■■ お話しをされたが、その中で■■■ との要求があり、U R は■■■ と従来どおりのご説明をしたところ、話は平行線となった。

( 秘書 ) 平行線のままその場はどのように終わったのか？

( 機構 ) ■■■ 等の発言をされ、最後は■■■ とのご発言で終わった。

( 秘書 ) 誰を介して■■■ つもりなのか？ウチの事務所にか？ウチにとってはある意味お客様だから何か力になればと思い仲介したのだから、こういうことをされるとウチにも迷惑がかかるということが先方は分からないのだろうか。

ただ、私としてはU R に「話を黙って聞くだけで良い」という主旨のお願いをしたつもりだったのだが。

( 機構 ) ■■■ と先方が仰っている部分だと思うが、U R としては可能な限り我慢してお話を聞いていたつもりだが、先方から■■■ という要求があったため、Y E S と答えられる内容ではなく、N O と言わざるを得なかったもの。発言から類推すると、先方は口利きを期待していた様子だったが、■■■ 秘書からも先日のお打合せ時に「ウチの事務所がU R に圧力をかけてカネが上がったなどあってはならない」という主旨のお話をいただいております、また、現在の■■■ という考えが基準上も妥当と考え、従来同様の回答をした。

( 秘書 ) 確かにそう言った。一体先方は幾ら欲しいのか？

( 機構 ) 具体額は仰らない。

( 秘書 ) 私から先方に聞いても良いが？

( 機構 ) 逆にこれ以上は関与されない方が宜しいように思う。先日もご説明したとおり、現在の

提示額は基準上の限度一杯であり工夫の余地が全くなく、先方に聞いてしまうとそちらも  
当方も厳しくなる。また、先方のご発言から推察すると、  
だけではないかと思われる。  
(秘書) 分かった。URには迷惑をかけてしまい申し訳ない。秘書とも話をし今後の対応を  
考える。

以 上

受 付	27 年 10 月 5 日 ( 月 ) 11 : 00
	総務チーム ■■■

依頼者	<div> <div> <div>衆</div> <div>・ 参 ・ (自民)</div> </div> <div> <div>あまり      あきら</div> <div>甘利   明 (2-514)</div> </div> </div>
	<div> <div>秘書 ■■■</div> <div> <div>神奈川13区</div> <div>(大和市、海老名市、座間市、綾瀬市)</div> </div> <div> <div>会      館    03-3508-7528</div> <div>会館 F A X   03-3502-5087</div> </div> </div>
日付	内 容
27.11.5 16:00	<p>&lt;議員会館にて秘書と面会&gt;  (秘書) 連絡しようと思っていた。■■■(株)に再度連絡を取ってもらえないだろうか。この前、自分に説明してもらった際に用いた補償内容がわかる一枚ものの資料。あれを先方に示してあらためて面会して説明してもらえるとありがたい。  (機構) なかなか難しいと思うが、担当部門と相談してみる。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>

		受 付	27年10月5日(月) 11:00 総務チーム
依頼者	<div> <div>衆</div> <div>・ 参 (自民)</div> <div> <div>あまり</div> <div>あきら</div> <div>甘利 明 (2-514)</div> </div> </div>		
	<div> <div> <div>秘書</div> <div></div> </div> <div> <div>神奈川13区</div> <div>(大和市、海老名市、座間市、綾瀬市)</div> </div> <div> <div>会 館</div> <div>03-3508-7528</div> </div> <div> <div>会館FAX</div> <div>03-3502-5087</div> </div> </div>		
日付	内 容		
27.12.1 14:00	<p>&lt;地元事務所で秘書と面会&gt;</p> <p>先方：秘書</p> <p>当方：中瀬総務部長、国会班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの経緯等について協議。</li> <li>・ 今後の対応についてUR内部で事実確認を行い回答する予定。</li> </ul> <p style="text-align: right;">以 上</p>		



受 付

27 年 10 月 5 日 (月) 11 : 00

総務チーム ■■■

依頼者

衆 ・ 参 (自民)

あまり あきら

甘利 明 (2-514)

秘書

神奈川県13区  
(大和市、海老名市、  
座間市、綾瀬市)

会 館 03-3508-7528  
会館FAX 03-3502-5087

日付

内

容

27.12.16  
10:30

<地元事務所で秘書と面会>

先方: ■■■秘書

当方: 中瀬総務部長、国会班■■■

(機構) 今後の対応についてだが、URとしては現在、提示している条件以上のことは出来ないと考えており、これ以上、先方からの要望等が続くようであれば、■■■■■■■■■■  
■■■■■■■■■■ しかないと思う。

(秘書) そこまでした方が、事務所としてはかえって都合が良い。事務所に相談したが、それでも金額の増とはならなかった。ということでも事務所の顔は立つ。URとしてはそこ■■■■■■■■■■  
■■■■■■■■■■ まで考えているというのを示してしまった方が良い。

その際には、これまで対応して頂いていた菅沼TLではなく、別の方、できれば上席の方に対応してもらえると助かる。菅沼TLはこれまでの経緯等を知っているだけに同席しない方が良いと思う。

これで十分、事務所の顔は立つので宜しくお願いしたい。

(機構) 承知した。担当部門に相談して来週の早い段階(12/21 又は 12/22)には、最終の対応方針等をご報告できると思う。

以 上

受 付	27 年 10 月 5 日 (月) 11 : 00
	総務チーム ■■■

依頼者	<div> <div>衆</div>・参 (自民) <div> <div>あまり      あきら</div> <div>甘利   明 (2-514)</div> </div> </div>
	<div> <div>秘書 ■■■</div> <div> <div>神奈川13区</div> <div>(大和市、海老名市、座間市、綾瀬市)</div> </div> </div> <div> <div>会 館 03-3508-7528</div> <div>会館FAX 03-3502-5087</div> </div>
日付	内 容
27.12.22 10:30	<p>&lt;地元事務所で秘書と面会&gt;</p> <p>先方：■■■秘書</p> <p>当方：中瀬総務部長、国会班■■■</p> <p>(機構) 先日、検討段階ということでご説明したとおりで、現在提示している条件以上の対応はできない。これに納得いかない場合は■■■という対応をしていきたい。</p> <p>(秘書) 了解。それで構わない。実は先日お会いした後にも■■■氏から電話があった。今後の対応について、URからの意見ではなく、事務所の意見としても軽く触れておいた。「おそらく、URも増額はしないだろう」という点と、「これ以上続くのであれば、■■■」という点を。</p> <p>また、■■■の要望も含めて、■■■と書いておいた。■■■氏も事務所に迷惑をかけてまでURに増額を求めるつもりはないらしい。■■■氏としても早期に解決したいと思っているようだ。</p> <p>(機構) 事務所からも言っているのであれば、ありがたい。</p> <p>(秘書) ただ、1点お願いがある。実は■■■氏からの電話の中で、年内にはURから協議の申し入れがあると思うと伝えてしまっている。申し訳ないが、早々に■■■氏に連絡を入れて協議の場をセットして欲しい。■■■氏は、■■■</p> <p>■■■URからの連絡を待っている。そこまではする必要は無いとはつたえたのだが。</p> <p>(機構) 承知した。</p> <p>(秘書) 協議の際には、菅沼TL以外の方で対応を頂きたい。</p> <p>(機構) 承知した。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>

受 付

27 年 10 月 5 日 (月) 11 : 00

総務チーム

依頼者

衆・参 (自民)

あまり

あきら

甘利 明 (2-514)

秘書

神奈川13区  
(大和市、海老名市、  
座間市、綾瀬市)

会 館 03-3508-7528  
会館FAX 03-3502-5087

日付

内

容

28.1.6  
10:30

<地元事務所で秘書と面会>

先方：秘書

当方：中瀬総務部長、国会班

(機構) の件では、ご迷惑をおかけしている。

(秘書) いや、逆にこちらがご迷惑をおかけする状況になってしまった。申し訳ない。

(機構)

(秘書) 了解した。その時には事務所としても相応の対応で臨む。

(機構)

(秘書) 事務所としても、このような状況になった時点でもう何も出来ない。何故このようなことをするのか理解できない。

(機構) 一方、本体(補償)の話であるが、

(秘書) 了解した。

事前に連絡を頂きたい。

(機構) 承知した。

以 上



## 議事録

日 時	[REDACTED]	打合せ先	UR 千葉業務部	記 録	[REDACTED]
出席者等	相手方 [REDACTED]				
	当方 本社NT業務部 山本TL、[REDACTED] 首都圏NT本部千葉業務部 菅沼TL、[REDACTED]				
件名	[REDACTED]				
資料	なし				

會 議 要 旨

[illegible]

[REDACTED]

以上

(補足)

[REDACTED]

## 協 議 録

日時: \_\_\_\_\_

場所：千葉業務部 202 会議室

相手方: \_\_\_\_\_

対応者：業務推進Ｔ 宅地整備Ｔ 菅沼Ｔ

**[協議内容]**

[illegible]

[REDACTED]

以 上



## 出席者

### ○ 国土交通省

住宅局総務課長 坂根 工博

住宅局総務課証券化支援対策官 芭蕉宮 総一郎

住宅局総務課係員 村瀬 崇史

### ○ 都市再生機構（UR）

理事 天河 宏文

審議役（ニュータウン担当） 間下 滋

総務部長 中瀬 弘実

ニュータウン業務部販売業務チームリーダー 山本 直

経営企画部企画チームリーダー 鎌原 宜文